

クロバイ ハイノキ科

Symplocos prunifolia Siebold et Zucc. var. *prunifolia*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2015.5.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では南部町金華山（金華山）のみに自生が知られている。現在のところ絶滅に至る可能性は低いが、局所的で希少性が高い。

■**特徴**：山地に生育する常緑高木。高さ 10 m、幹直径は 30 cm を超える。樹皮は黒褐色。葉は互生し、楕円形か長楕円形で葉身は長さ 5–8 cm、幅 2–3 cm、先端が突き出す。革質で厚く表面は濃緑色で光沢がある。裏は白緑色、両面とも無毛。葉縁に鋸歯があり裏側に反り返る。葉脈は表面は凹み裏面は盛り上がる。前年枝の葉腋から 3–7 cm の総状花序を伸ばし多数の白色の花を付ける。花柄があり花冠は 5 深裂する。果実は核果。長さ 6–8 mm の狭卵形で、秋から冬にかけて黒紫色に熟す。

■**分布** 県内：南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：自生地の自然林保護。保全意識の向上。

■**特記事項**：県指定天然記念物「金華山熊野神社社叢」。

■**文献**：18, 74.

執筆：浜田幸夫

トクワカソウ（イワウチワ狭義） イワウメ科

Shortia uniflora (Maxim.) Maxim. var. *orbicularis* Honda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市佐治町 2021.4.25 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内が分布西限。愛好家に人気があり遊歩道沿いなど身近な自生地を中心に開花個体が採取され、株数は明らかに減少している。

■**特徴**：山地のやや暗い林床や尾根沿いのやや乾いた岩混じりの急斜面に生育する常緑の多年生草本。岩場だけでなく土に生育することが多い。根茎は横走り葉は根出し叢生する。葉は円心形で円切頭–凹頭、やや厚硬で光沢がある。波状歯縁で長柄がある。花期は 4–5 月。径 2 cm ほどの淡紅色の花を 1 個つける。広鐘形で 5 裂し各片はさらに細かく裂ける。葉が小さく、広円形で長さより幅が広く基部が心形なのが狭義のイワウチワ、葉が広楕円形で基部は円形またはくさび形になり北陸から近畿にかけて分布するのをトクワカソウとする。これらは地域ごとの傾向であり区別できない個体も多い。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、鳥取市（用瀬町、佐治町）、三朝町。県外：本州（東北–中国地方）

■**保護上の留意点**：採取防止。山地の自然林保護。ニホンジカの適正管理

■**特記事項**：分布西限。イワウチワとして、国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：松本 綾

コメバツガザクラ ツツジ科

Arcterica nana (Maxim.) Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2014.5.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、大山と烏ヶ山の山頂部の風衝草原や岩礫地に生育し国内分布の西限にあたる。環境の変化が少ない場所であるが、生育状態には注意を要する。

■**特徴**：高山の砂礫地、岩礫地に生育する常緑小低木。茎は地上をはい、上部が直立して高さ 5–10 cm になる。葉は 3 枚輪生し、革質で長さ 5–10 mm の楕円形。花期は 5 月中–下旬で枝の先端に花序を出し、下向きに白色のつぼ形の花をつける。大山では山頂部の南向きの砂礫地に多く生育している。

■**分布** 県内：大山町、江府町。県外：北海道、本州（中部以北）、奈良県、兵庫県。

■**保護上の留意点**：登山者による踏みつけ防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ミヤマホツツジ ツツジ科
Elliottia bracteata (Maxim.) Hook.f.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



大山 2010.7.27 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：県内では大山の高標高域にのみ生育し生育基盤が脆弱。大山が種の分布西限で遺存植物と考えられる。

■**特徴**：亜高山帯—高山帯の草地や岩場、林縁に生育する落葉低木。大山では山頂部や稜線部の風衝地に生育し、小群生をなす。高さは20–30 cm。葉は互生で倒卵形、鈍頭、全縁。花期は7–8月、枝先に数個の白色の花をつける。生育地の岩場の崩壊や人の踏みつけ等による個体数の減少が懸念される。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：生育する風衝草地への立ち入り禁止等厳正保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106。

執筆：鷲見寛幸

サラサドウダン ツツジ科
Enkianthus campanulatus (Miq.) G.Nicholson, var. *campanulatus*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



智頭町 2020.6.1 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内では智頭町、若桜町の稜線部と溪流の岩場に自生するのみで分布域がせまく、生育基盤が脆弱である。

■**特徴**：山地の尾根部や岩場に生育する落葉低木。高さ4–5 mになる。よく分枝し、枝の先に葉が輪状に叢生する。葉身は倒卵状楕円形—広い楕円形で縁に細鈍鋸歯がある。葉の両面には毛があり、裏面下部葉腋には褐毛を密生する。花は5–6月、枝先に総状花序がつく。花冠は5裂し、鐘形で下を向く。色は先端が淡紅色で下部は黄白色、紅色の縦条が入る。果実は蒴果で上を向く。

■**分布** 県内：智頭町、若桜町。県外：北海道、本州、四国。

■**保護上の留意点**：自然林の保全、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

ベニドウダン ツツジ科
Enkianthus cernuus (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



智頭町 2013.5.12 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内では智頭町、三朝町の県境に近い稜線部に自生するのみで分布域がせまく生育基盤が脆弱。サラサドウダンより数が少ない。

■**特徴**：山地の尾根部や岩場に生育する落葉低木。高さ2 mあまりになる。よく分枝し、枝の先に葉が輪状に叢生する。葉身は倒卵形—狭卵形で縁に微細鋸歯がある。上面に短毛を散生し、下面脈状には毛が密生するもの、ほとんどないものもある。花期は5–6月、枝先に総状花序がつく。花冠の先は不揃いに多数に裂ける。鐘形で下を向く。色は先端が紅紫色。果実は蒴果で上を向く。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、智頭町、三朝町。県外：本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自然林の保全、採取防止。

■**特記事項**：シロドウダン（ベニドウダンを含む）として、国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

ウラジロハナヒリノキ ツツジ科

Eubotryoides grayana (Maxim.) H.Hara var. *hypoleuca* (Nakai) H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



道後山 2021.6.9 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内西部が分布限界。生育地が限定され孤立していて、個体数も少ない。

■**特徴**：ハナヒリノキの変種で、山地の日当たりのよい低木林内に生える高さ50cm-1m内外の落葉低木。ハナヒリノキに比べて小型。よく分枝する。葉は卵状楕円形または楕円形で、長さ2-6cm、幅1-3cm。裏面は白色を帯び無毛。花期は6-7月。淡緑白色で枝の片側に多数総状につき、下向きに咲く。山形県以西-中国山地までの日本海側山地や岩場に生える。県内東部では見つかっていない。有毒植物で、葉をもんで鼻に近づけるとくしゃみが出ることから、くしゃみの意味のハナヒリの和名がある。

■**分布** 県内：大山町、江府町、日南町。県外：本州、山形県-広島県までの主に日本海側。

■**保護上の留意点**：登山道維持管理時の刈払いに注意。

■**文献**：10。

執筆：藤原文子

シラタマノキ ツツジ科

Gaultheria pyroloides Hook.f. et Thomson ex Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2020.7.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は大山と道後山付近に限られ、個体数も少ない。風衝地の崩落や草地の樹林化による減少がみられる。

■**特徴**：日当たりがよくやや乾燥した高地の風衝草原や砂礫地に群生する常緑低木。高さは5-20cm。葉は互生し長さ約3cmの楕円形で、鋸歯があり表面の光沢は少ない。花期は6-7月で、釣鐘形で先端のすぼまった白色の花を下向きにつける。果実は白い球状となり、潰すと独特の香りがする。

■**分布** 県内：大山町、江府町、日南町。県外：北海道、本州（中部以北）、広島県（道後山）、島根県（三瓶山）。

■**保護上の留意点**：採取防止、登山者による踏みつけ防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

シャクジョウソウ ツツジ科

Hypopitys monotropa Crantz

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2013.8.5 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自生環境の変化に弱く、生育条件が限られている。県内の生育地は大山と氷ノ山山系に限られており、絶滅のおそれを検討する必要がある。

■**特徴**：山地の薄暗い林下に生育する菌従属栄養植物。葉緑体は持たない。樹木と共生し生育するキシメジ科キシメジ属の菌種から養分を得て生育する。葉は鱗片状。花期は6-8月。高さ15cm前後の花茎を伸長させ、4-8花を花茎の先端にまとめてつける。花は長い鐘型。全体淡黄色褐色で目立たない。氷ノ山山系では、この数年間は生育が確認ができていない。

■**分布** 県内：大山、伯耆町、江府町、若桜町、八頭町。県外：北海道、本州、四国、九州。北半球温帯域に広域分布。

■**保護上の留意点**：山地の自然林の保全。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ツガザクラ ツツジ科
Phyllodoce nipponica Makino var. *nipponica*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



大山 2019.5.25 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地が大江山頂部に限定されている遺存植物で、本州における分布西限。生育地の気象条件は厳しいが個体数の増減が少ないため、今改定でNTとする。

■**特徴**：亜高山帯—高山帯の岩上や岩礫地に生育する常緑小低木。幹は高さ5–15 cmで多分枝し、匍匐あるいは直立する。葉は線形で小さく密生する。花期は6–7月、淡紅色—帯紅白色の鐘形の花を横向きにつける。果実は球形で上向きにつく。

■**分布** 県内：大山山系（琴浦町，大山町，江府町）。県外：本州（福島県—鳥取県），四国（愛媛県）。

■**保護上の留意点**：採取防止，登山者による踏みつけ防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

マルバノイチヤクソウ ツツジ科
Pyrola nephrophylla (Andres) Andres

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



江府町 2014.7.15 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育地は県内全域に点在するが、生育個体数は少ない。東部地区では、シカ食害を受けて減少している。個体が微細なため、花期以外には発見が困難。

■**特徴**：日当たりのよい山地の林床や草地に生育する多年生草本。葉はほぼ円形に近く、長さ幅ともに3–5 cm。花期は7月上旬—下旬、高さ15–30 cmの花茎を伸ばし、白色からやや赤みを帯びた花を5–10個つける。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，鳥取市鹿野町，三朝町，大山町，江府町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止，登山道の踏みつけ防止，山地草原の管理。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ヒカゲツツジ ツツジ科
Rhododendron keiskei Miq. var. *keiskei*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



若桜町 2020.4.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の限られた岩場や崖地にのみ自生する。個体生育基盤が脆弱で絶滅のおそれが高い。園芸用に採取される。

■**特徴**：山地の岩場や崖地に生育する常緑低木。高さ1 m内外。葉は長楕円形で薄い皮質、先は尖り、先端に腺状の突起がある。葉柄は長さ4 mmほど。枝先では輪生状につく。花期は4–5月、枝先に2–4個の花がつく。色は淡黄色、広い漏斗型で径5 cmほど。ブナ帯の急峻な岩上に孤立的に生育する。林道沿い露岩の低い位置に見られた個体はほとんどが採取により消失している。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯尾根岩場の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ダイセンミツバツツジ ツツジ科 *Rhododendron lagopus* Nakai var. *lagopus*

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



倉吉市 2007.5 / 撮影：池本省吾

■**選定理由**：全国的にも分布範囲は限られる。県内では大山周辺に多い。東部では点在する程度。

■**特徴**：山地の林内や林縁に生育する落葉低木。幹は高さ3 m程になる。よく分枝し、枝は車輪状に出る。葉は枝先に3枚輪生し、広菱形で鋭頭、基部はくさび形。葉柄は長さ5 mm前後で淡褐色毛が葉身裏面主脈から葉柄基部まで密生する。花期は4-5月。紅紫色で径は約4 cm, 5深裂する。類似種のユキグニミツバツツジは葉柄の下半部が無毛。

■**分布** 県内：やや高標高地に点在。県外：本州（中国地方，近畿地方北西，東海），四国。

■**保護上の留意点**：山地自然林の保護，保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：前田雄一

ゲンカイツツジ ツツジ科 *Rhododendron mucronulatum* Turcz. var. *ciliatum* Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町 2020.4.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は南西部の花崗岩地域に限定され，生育地，生育個体数ともに限られている。また園芸用採取による個体数の減少も見られる。

■**特徴**：山地の日当たりのよい露岩上に生育する落葉低木。樹高1 m内外で若枝は軟毛が密生。葉は狭楕円形，花は開葉前の3月下旬から咲き，径3-4 cmで紅紫色。花はミツバツツジ類より色が濃く，開花時期も少し早い。花弁に丸みがある。ミツバツツジ類よりさらに乾いた岩場を好む傾向がある。

■**分布** 県内：日野町，日南町。県外：本州（中国地方），四国，九州。

■**保護上の留意点**：園芸用採取の防止。

■**特記事項**：カラムラサキツツジ（ゲンカイツツジを含む）として，国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

コヨウラクツツジ ツツジ科 *Rhododendron pentandrum* (Maxim.) Craven

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2014.5.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地はブナ帯域の山岳岩場で，互いに孤立しており，生育地，生育個体数ともに少ない。

■**特徴**：ブナ帯域の林縁や岩隙など明るい場所に生育する高さ1-2 mの落葉低木。葉は，長さ3 cmの楕円形で輪生状に互生し，上面と縁辺に疎毛が散生する。花期は5-6月で赤褐色の壺形の花を下垂させる。花柄は長く腺毛がある。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，三朝町，琴浦町，大山町，江府町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の自然林の保護，採取防止。

執筆：矢田貝繁明

キシツツジ ツツジ科
Rhododendron ripense Makino

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



日野町 2021.4.23 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：分布北限。県内での生育地は日野川中・上流域に限られる。台風の増水で本種が水に浸かって枯れたようにみえたことがあったものの、個体数の減少はみられなかった。

■**特徴**：川岸の岩場などに生育する半常緑の低木。幹はよく分枝し、高さ120 cm内外。若枝には長毛と腺毛がある。葉は互生。葉柄に淡褐色軟毛が密生。春葉と夏葉があり、春葉は長楕円形で長さ3-5 cm。両面に剛毛がやや密生。夏葉は狭楕円形または倒披針形で長さ1-1.4 cm、両面に剛毛が生える。花期は4-5月。枝先から新葉とともに1-3個の花を開く。花柄にはやや密に長毛があり、腺毛がまばらに混じる。萼片は5枚。花冠は5中裂し淡紅紫色、広漏斗形で径4-5 cm、上側3片に斑紋がある。蒴果は狭卵形で径約1 cm。

■**分布** 県内：日野川中・上流域。県外：本州（中国地方）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。日野川川岸の自然植生保護。河川改修には配慮を要する。

執筆者：藤原文子

バイカツツジ ツツジ科
Rhododendron semibarbatum Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



智頭町 2017.6.27 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：太平洋側での分布は多いが、日本海側では少ない。県内では東部の岩棚状の崖地、数カ所に自生するのみで生育基盤が脆弱。

■**特徴**：若い枝や葉柄には腺毛が多い。葉は互生。枝の先に集まる。葉は楕円形-広楕円形。鈍頭、基部は円く、縁に細鋸歯がある。花は6-7月、新葉の下に1-数个横向きに咲く。花冠は径2 cmで、花柄には密に腺毛がある。花弁は5枚、白色で上半内面に紫点があり、のど部には軟毛がある。果実は球形で腺毛がある。

■**分布** 県内：鳥取市、智頭町。県外：北海道（南部）、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：岩場の自然植生の保護。

執筆者：前田雄一

アラゲナツハゼ ツツジ科
Vaccinium ciliatum Thunb.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



鳥取市福部町 2021.8.20 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の鳥取砂丘と浦富海岸にて自生確認があるが、個体数は少なく生育基盤が脆弱。

■**特徴**：山地の林縁や崖地に生育する落葉低木。高さは2 mほどになり、枝は多く分枝する。葉は広卵形で先は短く尖り、全縁で下面に白毛が密生する。鋸歯はない。花期は6月、釣鐘形で白色の花が水平に横並びに咲き、赤色の苞が目立つ。果実は球形で白い粉をかぶったまま黒く熟す。砂丘地の尾根状地や海岸岩場でヒサカキ、ナツハゼ、ハマゴウなどと混生し、低木のやぶをつくる。砂丘周辺尾根の松枯れにともない、周囲の樹木が成長したことでアラゲナツハゼが衰退傾向にある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、福部町）、江府町。県外：本州（福井県以西の日本海側）、九州（北部）。

■**保護上の留意点**：海岸部の開発による二次林の破壊、全面刈り払い等に注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

コケモモ ツツジ科

Vaccinium vitis-idaea L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2015.10.5 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：大山と氷ノ山の山頂部にわずかに分布する常緑低木。種子生産はほとんどなく個体群も縮小ぎみ。存続に強い懸念がある。

■**特徴**：高山の乾いた草地や岩場に生育する常緑の矮性低木。茎は地面をはい、高さは20 cm程度。葉は互生し、革質で長楕円形、先は丸い。裏面には淡い黒点を散生する。花期は6-7月、釣鐘形で径1 cmほどの帯紅白色の花をつける。氷ノ山では個体群の披陰と衰退が顕著となり2015年に周囲の低木の刈り込みを実施した。その結果、小数の開花もみられたが依然として絶滅のおそれが非常に高い。大山では小数ながら結実もあり、氷ノ山よりはましな状況。

■**分布** 県内：氷ノ山、大山。 県外：北海道、本州、四国、九州の高山（西日本ではまれ）。

■**保護上の留意点**：採取防止、自生地との管理とモニタリング。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：永松 大

ホソバオオアリドオシ アカネ科

Damnacanthus indicus C.F.Gaertn. var. *lancifolius* Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2021.3.26 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では自然性の高い照葉樹林下に点在する。社叢などで見つかることが多いが、モウソウチクなどの侵入が懸念される場所もある。東部ではシカの食害が見られる場所もあり、注意が必要。

■**特徴**：シイやタブが優占する湿った照葉樹林下に生育する常緑小低木。根は数珠根状にならない。葉は革質、長楕円形で長さ5 cm程度、鋭頭で基部は円形。刺針は葉より短い。花期は5月。白色で漏斗状、裂片が卵形の花をつける。果実は球形で赤熟し、花と果実が同じ時期につく。社叢に見られる類似種のアリドオシは葉が卵形で小さく長さ2 cmまで。刺針は葉より長い。オオアリドオシは刺が短く葉の1/2以下、葉は1-5 cm。東部では平地の社叢にシカの食害が拡大すると本種もあふない

■**分布** 県内：鳥取市、湯梨浜町、三朝町、倉吉市、大山町、米子市、南部町。 県外：本州（福井・静岡県以西）、九州。

■**保護上の留意点**：自然性の高い照葉樹林の保護。ニホンジカの適正管理。

■**文献**：91.

執筆：坂田成孝

キヌタソウ アカネ科

Galium kinuta Nakai et H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2017.7.17 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では孤立的に生育し、絶滅した場所もある。それぞれの集団も小さく、最大の生育地でも100個体程度。道路の維持管理で刈り払われることもある。

■**特徴**：山地の林縁、岩隙、沢沿いの岩礫地などに生育する多年生草本。茎は直立し無毛で、高さ30-60 cm。葉は輪生し無柄。葉身は卵状披針形で尾状突頭、3脈が顕著であることから容易に見分けられる。花期は7-8月。茎の上部に小花多数の円錐花序をつける。花は白色で小さく花冠は4裂する。道路の維持管理で刈り払いされるので、周知して保護している生育地もある。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市佐治町、三朝町、倉吉市関金町、日野町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地の自然植生保護。林縁部のススキ、ササ等の適正管理。

執筆：藤原文子

ミヤマムグラ アカネ科

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönbr.-Tem.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2021.7.23 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部のブナ帯域のやや明るい林床にみられるが、分布域は限定される。シカの食害が激しくなり、影響が懸念される。

■**特徴**：山地の林内に生育する多年生草本。茎は直立し高さ 20 cm 程度。茎葉は茎の下部では対生に近く、上部では 4 枚輪生となる。葉は葉柄があり中脈が目立つ。花期は 6-7 月、茎頂に短い花序を出し、数個の花をまばらにつける。花冠は白色で 4 裂、径約 2 mm と小さい。近年シカの食害により群落が縮小しており、継続的にモニタリングを続けるとともに、状況に応じて食害防止対策が必要。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州，四国，九州。東南アジア。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護，保全。ニホンジカの適正管理，食害防止。

執筆者：坂田成孝

サツマイナモリ アカネ科

Ophiorrhiza japonica Blume var. *japonica*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2011.5.9 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では多湿な照葉樹林やスギ植林下の林床，神社境内，参道などに群生する。潜在的な生育適地は広そうだが，実際の自生地は限られる。谷川沿いでは増水等で群落ごと流出することもある。

■**特徴**：低山の多湿な照葉樹林の林床に生育する小型の常緑多年生草本。茎は細く，地面をはってしばしば大群落となる。基部は木質。高さ 5-20 cm。葉は対生し濃緑色でやや光沢があり緑は波うつ。花期は 3-5 月。枝先に集散花序をつけ，花冠は白色，漏斗状で先は 5 裂する。内面は毛におおわれている。押し花にすると花冠は赤くなる。和名は発見地の薩摩にちなむ。別名キダチイナモリ。

■**分布** 県内：鳥取市，三朝町，倉吉市。県外：本州（関東南部以西），四国，九州，南西諸島。中国南部。

■**保護上の留意点**：採取防止，照葉樹林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆者：井上喜美子

イナモリソウ アカネ科

Pseudopyxis depressa Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2015.6.13 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：自生地がごく限られている。生育地は維持されているが，人目につきやすい場所で個体群の存続に懸念がある。

■**特徴**：常緑広葉樹林やスギ林のやや暗い林床に生育する多年草。細く伸びた地下茎の先が地上茎となり，高さ 5-10 cm。葉は対生し，茎の上部に 2-3 対がつき，卵形で円頭，基部は円形—心形で柄があり，葉の表面裏面ともに軟毛が生える。花期は 5-6 月，茎上部の葉腋または枝先に 1-2 個，淡紅紫色の花をつける。花冠は長さ 2 cm ほど，筒状漏斗形で先は 5 裂して平開し，緑が波打つ。自生地の個体数は維持されているが，暗い林内で花付きがよくない。

■**分布** 県内：智頭町，南部町。県外：関東南部以西—九州。

■**保護上の留意点**：自生地の森林環境の保全管理。自生地は登山道沿いにあり，踏みつけや採取の防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：赤井伸江

オオキヌタソウ アカネ科

Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2016.6.2 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部の山地に局所的に生育する。林縁の日当たりがよい草地に生育するため、周囲の植物の影響を受けやすい。

■**特徴**：山地の植林下の林道沿い草地、コナラなどの落葉樹林林縁などに生える多年生草本。茎は直立し30–60 cmになる。葉は4枚輪生、長さ6–10 cm。花期は5–6月。径3–4 mmで緑白色の多数の花をつける。生育地の一つは植林地林縁でヒノキの成長にともない暗くなって消滅のおそれがある。もう一つの生育地も周囲の植物の成長にともない本種の衰退がみられ、開花個体が少なくなってきた。山地林縁部に生えるキヌタソウと比べると、本種は葉柄があり、葉は卵形で大きく、葉腋に集散花序を多数つける。

■**分布** 県内：若桜町、江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：針葉樹植林や落葉広葉樹林の林縁部草地の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：藤原文子

エゾリンドウ リンドウ科

Gentiana triflora Pall. var. *japonica* (Kusn.) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2018.9.15 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：北海道と氷ノ山以北の本州に分布するが、大山町で生育が確認された。分布南西限である可能性が大。生育地、生育個体数ともに少なく生育基盤は脆弱。

■**特徴**：山地および湿地に生育する北方性の多年生草本。茎は太くて直立。花期は10月、花は青紫色で茎の先端と葉腋に5–20個をつける。葉は対生し、披針形で裏面は粉白色を帯びる。2018年に大山中腹の草原内で生育を確認した。意図的な持ち込みは確認されていない。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、本州（近畿以北）。

■**保護上の留意点**：生育草原の樹林化防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

イヌセンブリ リンドウ科

Swertia tosaensis Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町 2021.9.29 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内の自生地は極めて限定的で個体数も少ない。湿原の減少や環境変化で全国的にも減少している。

■**特徴**：湿原周辺の湿った場所に生育する越年生草本。地下に根茎があり群生する。分枝し、高さは5–30 cm程度。葉は倒披針形でセンブリに比べると幅が広い。花は白色で青紫色の条線があり、径約15 mm。江府町の自生地では10月ごろに開花する。芝生地や冬季にはスキーゲレンデとなる立地に自生しており、定期的に草刈される部分があつて矮小化している。以前に確認されていた米子市のため池では消滅した。

■**分布** 県内：米子市、伯耆町、江府町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の改変防止。盗採防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：35, 116.

執筆：清末幸久

チトセカズラ マチン科
Gardneria multiflora Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



倉吉市 2014.1.13 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内では中部地域の照葉樹二次林の急峻な林縁に生育する。林縁部の過剰な刈り払いが懸念されている。
- 特徴**：低山域の照葉樹林縁などに生育するつる性の木本植物。茎は緑色で葉は対生する。葉身は狭長楕円形で葉先は鋭く尖る。花期は6-7月。日当たりのよい上部の枝先の葉腋から花柄を伸ばして複数の花をつける。花は直径約1 cm, 花冠は黄色で深く5裂する。秋から冬に赤い実をつける。暗い林内の個体はほとんど成長できず、ギャップや林縁で開花・結実する。道路管理で林縁の個体が過剰に刈り払われる傾向にある。
- 分布** 県内：湯梨浜町、倉吉市。県外：本州（兵庫県-中国地方）。中国中南部、台湾。
- 保護上の留意点**：自生地林縁部の刈り払いに注意。
- 文献**：106, 108.

執筆者：磯江茂秋

ホウライカズラ マチン科
Gardneria nutans Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



鳥取市 2004.7.15 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内での自生確認地はごく少数。個体数も少なく人為的干渉により絶滅のおそれがある。
- 特徴**：低地の照葉樹林内に生育する常緑のつる性木本植物。枝は緑色で無毛。葉は対生し、卵状楕円形で全縁、長さ5-10 cm。革質で厚く光沢がある。花期は7月、葉腋から1個が下垂する。花冠は白色、5裂して反り返る。液果は球形で赤熟する。チトセカズラに似るが、花の色と数などで区別する。県内では神社の社叢林縁に見られるが、刈り払い等で見つからなくなることがあり、定期的なモニタリングが必要。
- 分布** 県内：鳥取市（旧市、青谷町）、北栄町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。
- 保護上の留意点**：低地の照葉樹林保護。刈り払いに注意。

執筆者：永松 大

ヒメナエ マチン科
Mitrasacme indica Wight

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2015.9.14 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県立博物館に標本があるが、生育状況は現状不明であった。2015年に米子市内のため池畔2カ所で生育が確認された。いずれも個体数は少なく2020年には消滅し生育が確認できなくなっている。
- 特徴**：日当たりのよい低湿地に生育する小型の1年生草本。高さ5-10 cm。葉は対生し、長さ3-8 mmの披針形の葉をまばらにつける。花期は8-9月で花は白色。個体は小さく花が咲いていなければ発見が困難なため今後も継続的な調査が望まれる。
- 分布** 県内：米子市。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：低湿地の維持管理。

執筆者：矢田貝繁明

アイナエ マチン科

Mitrasacme pygmaea R.Br.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2021.9.10 / 撮影：國野和昭

■**選定理由**：県内の草地などにわずかに生育するが、除草管理されなくなった生育地では高茎草本が繁茂して減少している。

■**特徴**：日当たりの良いやや湿った草地に生育する繊細な一年生草本。草丈は花茎を含めて2 cm ほどのものから15 cm に達するものまでさまざま。茎の下部に2-4 対の長楕円形か卵形の葉をつける。花期は8-10 月で、茎の先端と葉腋から花茎を1-4 本伸ばし、その上に花を付ける。花冠は白色、鐘形で先が4 裂する。県内の自生地は神社の石段および境内の苔上、除草管理されている水田畔、土砂採取跡のやや湿った草地。

■**分布** 県内：琴浦町、大山町、米子市、伯耆町、南部町、江府町。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：生育地である水田畔などの除草管理。自生域を踏み荒らさないこと。

執筆：國野和昭

キジョラン キョウチクトウ科

Marsdenia tomentosa C.Morren et Decne.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



倉吉市 2014.9.8 / 撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内の自生地はわずか。自生地は照葉樹林の林縁で、刈り払い等が生育に影響している可能性がある。

■**特徴**：やや湿った照葉樹林の林縁などに生育する常緑のつる性植物。葉は対生して円く、先が尖る。葉身は直径で10 cm ほどでやや長い柄がある。花期は8-9 月、葉腋から花柄を出して薄黄色の花をつける。葉はアサギマダラ幼虫の食草として知られる。樹木にからみつくが、全体を覆い尽くすようなことはない。暖地に多い。

■**分布** 県内：湯梨浜町、倉吉市。県外：本州（関東以西）、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保全、自生地の刈り払いに注意。

■**文献**：106, 108.

執筆：磯江茂秋

コカモメヅル キョウチクトウ科

Tylophora floribunda Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2021.9.12 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部のみ自生が確認されている。新たに大山町、日南町で確認されたが個体数は少ない。

■**特徴**：山野の草地に生える多年生草本。茎は細長く伸びて他の植物に巻きつく。葉は対生し長さ3-6 cm。葉身は薄く三角状卵形-卵状披針形、先は尖り基部は浅心形。花序はよく分枝し、まばらに散開。花は小さく径4-5 mm で暗褐色。全国的に里山の草刈り管理されている草地に残るとされ草地の維持が重要であるが、県内ではすぐにでも草刈りされそうな場所に生育しており、個体の保全との兼ね合いは悩ましい。全国的に希少化が進んでおり、兵庫県をはじめ多くの県で絶滅危惧にあげられている。

■**分布** 県内：大山町、米子市、伯耆町、日南町。県外：本州、四国、九州。朝鮮、中国。

■**保護上の留意点**：農道等の維持管理のための草刈りに注意が必要。

執筆：藤原文子

フナバラソウ キョウチクトウ科
Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2016.5.26 / 撮影：清末幸久

- 選定理由**：県内では海岸の岩場にまれに見られ、個体数は少ない。草原の減少や環境変化で全国的にも減少している。
- 特徴**：平地から山地の草地に生える多年生草本。茎は直立して高さ 60 cm 内外になり、密に軟毛がある。葉は卵状楕円形、急鋭突頭、基部は円形、裏面に密に軟毛がある。花期は 5-6 月。花は濃紫色で葉腋に多数つく。袋果は船の腹部に似ている。大陸系の植物と考えられ、分布状況は興味深い。県内では岩場の草地に生育するが、元来は草原性であり、高茎草本が茂って個体が衰弱し、花付きが悪くなった場所がある。
- 分布** 県内：鳥取市、湯梨浜町。県外：北海道、本州、四国、九州。朝鮮半島、中国大陸東北部。
- 保護上の留意点**：海岸岩場周辺の草地の保全管理。採取防止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：104.

執筆者：清末幸久

アオフナバラソウ キョウチクトウ科
Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne. f. *viridescens* (H.Hara) Sugim. ex Yonek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



鳥取市 2016.5.19 / 撮影：清末幸久

- 選定理由**：フナバラソウの品種で、県内ではフナバラソウよりも個体数がさらに少ない。
- 特徴**：花卉はフナバラソウと同形で肉厚、外面には短毛が生え、内面は無毛、先は 5 裂する。フナバラソウの花弁が濃紫色であるのに対しアオフナバラソウは淡黄緑色である。両種は同所的に生育する。
- 分布** 県内：鳥取市、湯梨浜町。県外：北海道、本州、四国、九州。朝鮮半島、中国大陸東北部。
- 保護上の留意点**：海岸岩場周辺の草地の保全管理。採取防止。

執筆者：清末幸久

スズサイコ キョウチクトウ科
Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



伯耆町 2020.7.2 / 撮影：藤原文子

- 選定理由**：県内では主に草刈り管理されている草地に分布する。管理放棄にともなう減少がある一方で、新たな生育地が確認されており、個体数が増加している生育地もあって今回 VU から NT となった。
- 特徴**：日当たりのよいやや乾いた草地に生育する多年生草本。茎は細く、直立して 1 m 内外。葉は対生で葉身は線形-披針形。先はとがり全縁。長さ 10 cm 内外。花期は 7-8 月。花は淡黄緑色で花冠は細く 5 裂、星状形となる。袋果は下垂し長さ 7 cm 内外。和名はつぼみの丸い形を鈴に見立てたもの。県内では砂丘地や山側の草地、スキー場やグラウンド観覧席の草地、山間棚田の草地などに見られるが、高茎植物が生えると消滅する。
- 分布** 県内：鳥取市福部町、八頭町、湯梨浜町、三朝町、倉吉市、琴浦町、伯耆町、米子市、江府町、日野町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：草地の維持や草刈り時に注意が必要。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

スナビキソウ ムラサキ科

Heliotropium japonicum A.Gray

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2021.5.16 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内各地の海岸部に点在するが、海浜の改変や人為攪乱により、好適な環境が減少している。

■**特徴**：海岸砂地に生える夏緑性の多年生草本。長い地下茎を出して繁殖し、しばしば群生する。地下茎は太く、茎はよく分枝して高さ 30 cm ほどになる。葉は互生、葉身はへら形で葉柄はない。花期は 6-8 月。茎の先に短い花序を出し、白色で中心部が黄色い花を多数咲かせる。アサギマダラが吸蜜することで知られる。磯浜海岸にも生育する。海岸侵食で浜崖ができる場所では崖下に侵入することもある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、福部町、気高町、青谷町）、北栄町、琴浦町、大山町、米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。朝鮮、シベリア、ヨーロッパ。

■**保護上の留意点**：海岸砂地・磯浜海岸の保全。

■**文献**：39, 64.

執筆者：清末幸久

ホタルカズラ ムラサキ科

Lithospermum zollingeri A.DC.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2021.5.5 / 撮影：木村順二

■**選定理由**：県内での自生地はきわめて限定されており、里山環境の変化により減少しつつある。自生地が互いに隔離されているため、個体群維持に懸念がある。

■**特徴**：日当たりの良い林縁や砂礫地の草地に生育する常緑の多年生草本。茎はつる状で地表をはい、所々から根を出して株状になる。高さは 20 cm 程度、全体に粗い毛がある。葉は互生し、葉身は長楕円形で長さ 2-6 cm ほど。花期は 4 月下旬-5 月中旬。花は径 1.5 cm ほど、青紫色で 5 裂し、花の中に隆起した白線が入る。国内自生種で類似したものはない。

■**分布** 県内：湯梨浜町、北栄町、大山町、米子市、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の里山の環境の維持。土木工事が計画される自生地があり、移植等の保護対策も必要。

■**特記事項**：とっとり花回廊園内に本種の生育が確認（2020 年）され、観察可能であるが、自生かは不明。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：木村順二

アキノハイルリソウ ムラサキ科

Omphalodes akiensis Kadota

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



日野町 2021.5.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：2009 年に新種として記載された種で、分布範囲が広島県、島根県、鳥取県に限られる。県内の生育地は西部地区の一部に限られている。

■**特徴**：山地の日当たりの悪いやや湿った谷間や林道沿いに生育する多年生草本。根出葉が大きくロゼット状となり、茎葉は茎を抱く。茎は匍匐し 40 cm 以上伸びる。花期は 4 月中-5 月下旬。花は淡青-白色で花冠は 5 裂する。県内各地に多産するヤマハリソウによく似るが、ヤマハリソウの葉は短毛に長毛が混じり、アキノハイルリソウは長毛が密生する。

■**分布** 県内：伯耆町、日野町、日南町。県外：広島県、島根県。

■**保護上の留意点**：生育の多い水路脇などの保全。

執筆者：矢田貝繁明

アオホオズキ ナス科
Physaliastrum japonicum (Franch. et Sav.) Honda

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



若桜町 2009.9.4 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では氷ノ山、那岐山周辺の林下にわずかに生育するが、シカの食害で見つけられなくなっている。

■**特徴**：山地の谷沿いやや湿った林内に生育する多年生草本。茎は直立するがやわらかく軟弱で軟毛がある。まばらに分枝して高さ30–60 cmになる。葉は卵形で柄があり、長さ5–12 cm程度。花期は6–7月、葉腋から下向きに1個の花を付ける。花冠は淡緑色、径2 cm。前改定稿で2010年にシカ食害により氷ノ山や八頭町の一部で群落が消滅したと報告したが、2010年代はこの傾向が深刻化し生育を見つけられなくなっている。現状が評価しがたいためVUのままとしたが、生育を確認できればシカ食害からの個体の保護が望ましい。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、若桜町、智頭町、八頭町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆者：永松 大

シオジ モクセイ科
Fraxinus platypoda Oliv.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



智頭町 2012.5.2 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内では東部を中心に、渓谷の限られた場所に孤立的に生育する。全国的な分布は関東以西の太平洋側に偏り、日本海側では少ない。

■**特徴**：山地の渓谷に生育する落葉高木。高さ25 m、径1 mにもなる。幹は通直で真円、枝下は長くて素性が良い。葉は7–9の小葉からなる奇数羽状複葉で、長さは25–35 cmと大きい。前後、左右に十字形に対生する。葉柄基部が著しく肥大する。雌雄異株。花期は4–5月、花弁はない。10月頃、翼のある果実をつける。シオジは洪水などで不安定な渓谷沿いに不連続に分布する。純林状になることもあるが面積は小さく、サワグルミやトチノキ、カツラなどと混生することが多い。材質が優れているので幹の形質がよい大径木は伐採されるおそれがある。県内東部の民家ではシオジ材の利用例もある。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、琴浦町。 県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保護。

執筆者：前田雄一

シシンラン イワタバコ科
Lysionotus pauciflorus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



三朝町 2014.8.4 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の分布はごく限定されており、種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく少ない。生育地の環境はナラ類の枯損等により悪化がみられ、依然として採取圧もある。

■**特徴**：山地渓谷沿いの老木に着生する小型の常緑性木本植物。茎は樹幹をはい、枝の高さは5–20 cmになる。8月上旬に枝の上部葉腋ごとに淡紅色の花を数個つける。花はラップ状唇形をして横向きに咲く。葉は厚質で、鋸歯縁をもつ広披針形で2–4枚が輪生する。保護活動はあるものの鑑賞目的の採取圧も依然としてみられる。

■**分布** 県内：三朝町。 県外：本州（静岡県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育環境の維持、嚴重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

イワギリソウ イワタバコ科

Opithandra primuloides (Miq.) B.L.Burtt

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市佐治町 2021.6.8 / 撮影：時岡昭人

■**選定理由**：生育適地が少なく県内での自生地はごく少ない。採取圧が高く、盗掘もみられる。

■**特徴**：山地の陰湿な岩壁に着生する小型多年生草本。葉は根出し卵円形—卵状楕円形で肉厚。円頭で基部はやや心形。縁には鈍い鋸歯があり、全体に白い軟毛が密生して光沢がない。5-6月、花茎に紅紫色の散状花序をつける。花冠は2 cmほどの漏斗状唇形で先が5つに分かれる。県内の自生地では人目につきやすい部分のほとんどが採取され、人の手の届かない高さにあるものだけが残るのみ。

■**分布** 県内：鳥取市(佐治町, 青谷町), 湯梨浜町。 県外：本州(近畿以西), 四国, 九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止, 岩場の自然植生保護。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：時岡昭人

マルバノサトウガラシ オオバコ科

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



日野町 2020.10.1 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では水田に多く生育するが、用水路がコンクリート化されて水田環境が変わり減少している。

■**特徴**：山間の水湿地や水田に生える1年生草本。稲刈り後の水田で鮮やかに紅葉した状態を見つけやすいが、花を見ることは少ない。茎は直立し高さ10 cm程度。葉は卵円形、無柄で長さ5 mmほど、数脈がある。花期は8-9月、葉腋につき、1-2 cmの柄があって花は単紫色。蒴果は円形。近縁のサトウガラシは、葉が線状披針形で1本の主脈が目立つ。マルバノサトウガラシは近年、県内では低山地の水田で減少し、山地棚田などで見られる。

■**分布** 県内：各地に点在。 県外：本州, 四国, 九州。

■**保護上の留意点**：分布の多い山間の水田は耕作放棄が増えており、推移に注意。

執筆者：坂田成孝

スズメハコベ オオバコ科

Microcarpaea minima (J.Koenig ex Retz.) Merr.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



湯梨浜町 2018.9.6 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では鳥取市の水田で観察されていたが現在は消失。新しく湯梨浜町内の休耕田でみつかったが、生育状況は不安定で絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：湿地や水田に生育する微小な1年生草本。茎は匍匐して多分枝し、節から発根し、径10 cmほどに広がる。葉は対生し狭長楕円形で全縁。花期は7-10月、筒状唇形で淡紅色の小さな花が葉腋に1個つく。稲刈り後の水田で成長することが多く、適度な湿り気と日当たりがあって他の水田雑草のない場所に生育する。2010年秋に気高町の水田で見つかったが、2010年代に消失。2018年に湯梨浜町内の休耕田にて新たに発見された。植物体が微小のため見つけにくく、継続的な調査が必要。

■**分布** 県内：湯梨浜町。 県外：本州(関東以西), 四国, 九州。

■**保護上の留意点**：水田稲作の継続, 除草剤散布に注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：永松 大

ヤマクワガタ オオバコ科
Veronica japonensis Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：—



若桜町 2014.6.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の山間湿地で確認されているのみ。個体数も少なく県内からの絶滅のおそれ大きい。

■**特徴**：ブナ林下の湿地に生える多年生草本。茎は分枝して地をはい長さ20 cm ほど、開出軟毛が密に生える。葉は対生し長さ20 mm 内外、広卵形で鋸歯があり、鋭頭で基部は円形、両面に白毛が散生する。葉柄に軟毛が生える。花期は6月、上部の葉腋から花序を出し淡紅白色の花をつける。蒴果は菱形状の扇形。山地の林中に生えるサンインクワガタは茎に曲がった軟毛が散生し葉の裏面は主脈上を除いては無毛、基部はくさび形になる。シカの食害があり周囲のカヤツリグサ類などは春先に食べられるが、本種は茎がはうために残っている状態。個体数は少なく花も数個咲くのみで絶滅のおそれが非常に高い。

■**分布** 県内：若桜町。県外：関東北部・中部の亜高山地帯、兵庫県。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護保全、ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆者：坂田成孝

サンインクワガタ オオバコ科
Veronica muratae T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



三朝町 2013.5.17 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：山陰地方を特徴づける種のひとつ。模式産地は島根県で、県内では報告が少ない。絶滅危惧評価には継続的な調査が必要。

■**特徴**：山地谷沿いの林内や林縁に群生する多年生草本。茎は地面をはい根をだして広がる。茎には曲がった軟毛が散生する。高さは10 cm。葉は対生し卵形、長さ1-2 cm で基部はくさび形。花期は5-6月。上部葉腋にまばらに数個つける。花冠は白紫色で径8 mm。蒴果は菱形で底部は広くくさび形。別名ニシノヤマクワガタ。

■**分布** 県内：鳥取市、若桜町、八頭町、智頭町、三朝町。県外：本州（京都府—島根県にかけての山陰地方）。

■**保護上の留意点**：山地の森林や林縁部の植生保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆者：井上喜美子

トウテイラン オオバコ科
Veronica ornata Monjuschko

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



湯梨浜町 2015.9.9 / 撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内では湯梨浜町内のみならずくに生育し個体数も少ない。全国的にも隠岐と京都府北部に分布するのみ。

■**特徴**：沿海地を好み、磯や砂地に生育する多年生草本。茎は高さ30-60 cm になり葉は対生する。葉、茎ともに白い綿毛が密生しており特に葉裏は白くみえる。8月頃茎の上部に長さ15 cm ほどの穂状花序をつけ、下から花を咲かせる。花期は比較的長い。トウテイランの自然分布は山陰の数カ所に限られるが、園芸的な栽培は各地で行われている。

■**分布** 県内：湯梨浜町。県外：島根県隠岐、京都府。

■**保護上の留意点**：自生地の自然保護、採取防止。園芸栽培個体との交雑防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106, 108。

執筆者：磯江茂秋

イヌノフグリ オオバコ科

Veronica polita Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2015.4.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：以前生育を確認した鳥取市内の自生地は除草剤散布と草刈りのため見られなくなった。古いまま残っている石垣や塀等に残っている可能性がある。

■**特徴**：葉の鋸歯は2-3対。萼裂片は狭卵形。花は淡紅白色で径2-3mm。花期は3-4月。茎は長さ10-25cm。ヨーロッパ原産のオオイヌノフグリが広く野生化し、在来種のイヌノフグリは希少になった。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。県外：本州、四国、九州、沖縄。東アジア。

■**保護上の留意点**：残っている場所があれば、除草剤の禁止、刈り払い注意。

■**文献**：85。

執筆者：井上喜美子

ヒメトラノオ オオバコ科

Veronica rotunda Nakai var. *petiolata* (Nakai) Albach

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



広島県 2006.9.11 / 撮影：世羅徹哉

■**選定理由**：県内では過去に大山町で採集された標本があるが、現在は環境が変わり生育は確認できない。絶滅した可能性が高い。

■**特徴**：山地の草地に生える多年生草本。高さ90cmほどになる。葉は対生し短柄がある。葉身は披針形で長さ10cm前後。花期は8-10月、花は青紫色で長い花穂に多数つける。過去に大山町槇原で採集記録があるが、現在はマツが優占する高木林となり草地環境がないため、当地では絶滅したと思われる。県内ではほかに生育は見つかっていない。

■**分布** 県内：大山町(現状不明)。県外：本州(関東地方以西)、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地草原の保全。

執筆者：坂田成孝

ダイセンクワガタ オオバコ科

Veronica schmidtiana Regel subsp. *senanensis* (Maxim.) Kitam. et Murata f. *daisenensis* (Makino) T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2021.5.23 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：大山が模式産地。大山稜線部の岩礫地を代表する草本植物として重要。

■**特徴**：大山の岩礫地や崩壊礫地に生育する多年生草本。高さは10-20cm。葉は対生し、三角状卵形で羽状に浅一中裂する。花期は6-7月。茎頂に淡紫青色の花を多数つける。果実は倒卵形。和名は、果実が細いがくで包まれ、その様子が兜のくわがたに似ることから。本州のブナ帯以上の山地に分布するミヤマクワガタの地域品種で、葉が三角状で花序が長く多数の花をつける点で区別される。

■**分布** 県内：大山。県外：近畿北部-山陰地方。

■**保護上の留意点**：自生する岩礫地の植生保護、踏みつけと採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106。

執筆者：鷲見寛幸

カワヂシャ オオバコ科
Veronica undulata Wall.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2021.4.23 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では低地の用水路などに自生するが、コンクリート化等、生育地の改変により減少。生育環境に外来植物が増えておりその影響による減少もある。

■**特徴**：低地の用水路泥地や水田に生える越年生草本。茎は円形、分枝して高さ 50 cm ほどになり群生する。葉は対生、長楕円披針形で先は尖る。基部は円形で茎を抱き、縁に細鋸歯がある。花期は 4-5 月、白色で単紫色の条がある。花柄は花期に斜上する。近年、本種の生育環境にオオカワヂシャ、オランダガラシなどの外来種が繁茂してカワヂシャが減少している。また河口付近にあった生育地は埋め立てられて工場用地となりみられなくなった。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、米子市。県外：本州（中部以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：用水路などの湿地性植生保全。外来植物への対応強化。

■**文献**：99.

執筆者：坂田成孝

トラノオスズカケ オオバコ科
Veronicastrum axillare (Siebold et Zucc.) T.Yamaz.

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：—



八頭町 2016.10.2 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：2015 年に県内での自生が確認された。その後、東部の 3 か所で生育が見つかったが個体数は少ない。暖地性の種で山陰に自生するのは貴重である。

■**特徴**：低山地の林縁に生える多年生草本。茎は無毛で、斜上し長さ 1 m ほどになる。葉は互生、卵形で先は尖り、基部は円形。縁に鋸歯があり長さ 10 cm 前後、両面とも無毛。花期は 9-10 月、葉腋に円錐状の花序を出し、密に花をつける。花は紅紫色。蒴果は卵形で長さ 3 mm 程度。生育地は農業用の水路などで刈り払いなどの危険性がある。県内では過去に「スズカケソウ」として採集された標本があったが再同定の結果、いずれもトラノオスズカケの特徴を持っていた。スズカケソウは全体に密にビロード状の毛が生え、花序は球形で花は濃紫色。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市、用瀬町）、八頭町。県外：四国、九州。

■**保護上の留意点**：低山地の自然植生保全と採取防止。

■**文献**：67.

執筆者：坂田成孝

ナンゴククガイソウ オオバコ科
Veronicastrum japonicum (Nakai) T.Yamaz. var. *australe* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)



大山 2016.7.24 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：県内の高山を代表する草本。生育範囲は限られるが、現在のところ県内では目だった減少はみられない。

■**特徴**：山地や自然草原、溪谷沿いに生育する多年生草本。茎は高さ 1 m ほどになる。葉は 4-6 枚が輪生状につき、長楕円形で長さ 10 cm ほど。夏、茎の先に淡青紫色で穂状花序の花をつける。和名は、層状につく輪生葉の様子からつけられた。本州の山地に広く分布する基本亜種クガイソウとは花軸に毛が無いことで区別されるが、大山では毛のある個体もみられる。

■**分布** 県内：氷ノ山、三国山、大山山系。県外：本州（紀伊半島、中国地方）、四国、九州の山地。

■**保護上の留意点**：山地草原の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106.

執筆者：鷲見寛幸

オオヒナノウスツボ ゴマノハグサ科 *Scrophularia kakudensis* Franch.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



岩美町 2020.9.10 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の海岸岩崖にのみ自生。崖地の崩壊と海岸草地の植生変化にともない個体数に減少傾向が認められる。

■**特徴**：草地や低山の林縁に生育する多年生草本。茎は高さ1 mほどになり、角ばった4稜がある。葉は対生し厚くて卵形、細鋸歯がある。花期は9月、茎の先に円錐状花序を伸ばし多くの花をつける。花冠は暗紫色でつぼ形、先は唇形の特徴的な形。萼裂片は披針形でとがる。県内では海岸崖地の風当たりのよい草地に自生しているが、崖地崩壊で絶滅のおそれがある。

■**分布** 県内：岩美町。県外：北海道，本州，四国，九州。朝鮮。

■**保護上の留意点**：海岸岩崖の植生保護と崩壊防止。

執筆者：坂田成孝

カイジンドウ シソ科 *Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



島根県 2015.6.2 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：伯耆町内での1977年6月の生育確認記録と1999年出版書籍への写真掲載があるが、度重なる調査努力によっても現在は県内での生育が確認できない。草地の樹林化により絶滅したと考えられる。

■**特徴**：明るい落葉樹林下や草地に生育する草丈30–50 cmの夏緑性多年生草本。葉は対生し長さ7–8 cm，幅3 cm程度で、やや大きな4–5対の鋸歯縁をもつ。花期は初夏。藍色の花を茎の上部に多くつける。

■**分布** 県内：絶滅。県外：北海道，本州，九州。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

オウギカズラ シソ科 *Ajuga japonica* Miq.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



智頭町 2012.6.5 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：山林の木陰に生育するが、県内での確認はごく少数でシカの食害により減少して絶滅の可能性が高い。

■**特徴**：山林の木陰に生育する多年草。葉は対生し葉柄があって五角状心形。高さ8–20 cm。花期は5–6月。花は葉腋につき、長さ約2.5 cmで淡紫色。花が終わると、名のようにつる状の長い走出枝がのびる。全体が地味で、花もあまり目立たない。

■**分布** 県内：智頭町。県外：本州，九州。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理。自然林の保全。

執筆者：井上喜美子

ジュウニヒトエ シソ科
Ajuga nipponensis Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



智頭町 2021.4.25 / 撮影：松本 綾

■**選定理由**：在来のジュウニヒトエは自生地、個体数ともに少ない。里山の利用放棄、除草剤の使用などで近年明らかに減少している。

■**特徴**：やや乾いた丘陵地の林縁や山ぎわの草地に生育する多年生草本。茎は数本束生し、高さ 10–25 cm、長白毛が密生。葉は対生で、粗い波状鋸歯縁、長さ 3–5 cm、基部は翼状。花期は 4–5 月。茎頂に穂状花序をつけ、淡紫色で唇形の花が密に重なって咲く様子を女官の装束に見立てた。県内では陽光の原野、崖錘地や農林道の法面砂礫地、雑木林内、林縁などに自生。火山地域に多い。過去には旺盛に開花していた自生地が除草剤使用で消滅した例がある。欧州原産のセイヨウジュウニヒトエもほぼ同時期に咲き、花が青紫色で花後につるが伸び根を出して広がる、在来種より多産。

■**分布** 県内：智頭町、三朝町、江府町、伯耆町、日野町。 県外：本州、四国。

■**保護上の留意点**：自生環境の保全とともに地域住民の理解が重要。

執筆者：松本 綾

ジャコウソウ シソ科
Chelonopsis moschata Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



大山町 2013.9.14 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は点在し、生育個体数ともに少ない。東部地区の生育地はシカ食害により生育が確認できなくなっている。

■**特徴**：山地の林床や陰湿な谷沿いなどに生育する夏緑性多年生草本。群がって生え高さ 50–80 cm、茎は四角柱状で荒い毛があり、花期には斜上する。葉は対生し、長さ 15 cm 前後の長楕円形。花期は 7 月下–9 月中旬で、上部の葉腋に淡紅色の筒状をした唇形花を斜め下向きに咲かせる。

■**分布** 県内：鳥取市国府町、八頭町（以上は現状不明）、三朝町、大山町、江府町、日野町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆者：矢田貝繁明

ミカエリソウ シソ科
Comanthosphace stellipila (Miq.) S.Moore var. *stellipila*

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
環境省：—



智頭町 2014.9.12 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の 3 カ所で自生が確認されていたが、智頭町の 1 群落はシカの食害で消滅した。他の自生地でも同様の可能性がある。

■**特徴**：山地の樹林下などに群生する落葉性半低木。葉は対生し、楕円形で鋭尖頭。鈍鋸歯縁。葉裏に灰白色の星形毛が密生する。花期は 9–10 月。淡紅色の唇形花を穂状花序に多数つける。雄蕊、雌蕊は濃紅紫色で花外に突出する。

■**分布** 県内：智頭町、八頭町（現状不明）。 県外：本州（福井県以西）。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108.

執筆者：井上喜美子

シモバシラ シソ科

Keiskea japonica Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



岩美町 2016.9.24 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：全国的な分布は太平洋側に多く、日本海側ではまれ。県内では岩美町の丘陵地の1カ所で生育が確認されているのみで絶滅のおそれがある。

■**特徴**：低山に生える多年生草本。茎の断面は方形で高さ40–70 cm。葉は先が尖り、下部は鋭く狭まる。うすい洋紙質で脈状に細毛があり、裏には腺点がある。花期は9月。花序は偏側生で密に花をつける。萼は等しく5裂する。花冠は白くやや2唇形、雄ずいは4本で長く花外に突き出す。分果は球形で平滑、濃褐色の網紋がある。

■**分布** 県内：岩美町。県外：本州（関東地方以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の維持・保全。

執筆者：前田雄一

キセワタ シソ科

Leonurus macranthus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



日南町 2021.7.29 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では生育地がごく少なく孤立している。希少。

■**特徴**：山地の草原に生育する多年生草本。茎は直立する。四角稜があり、高さは90–160 cm内外。葉は対生し、葉身は卵形–狭卵形、洋紙質で粗い毛があり長さ5–10 cm、欠刻状鋸歯縁。花期は8–9月、上部の葉腋に数個ずつ紅紫色の花をつける。花冠は白毛が密生し、長さ2.5–3 cm。上唇は全縁、下唇は3裂し紅紫色で反曲する。日南町の生育地は地元の人に周知して保護されている。個体数はわずかに増加しているが、生育地は孤立している。

■**分布** 県内：琴浦町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：定期的な草原管理（草刈り）。関係機関の意思疎通。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

タジマタムラソウ シソ科

Salvia omerocalyx Hayata var. *omerocalyx*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岩美町 2018.5.20 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：種としての分布域が狭い。県内では兵庫県境に近い東部の低地からブナ帯にかけて分布。個体数に明確な減少傾向はないが、自生地は限定される。

■**特徴**：二次林の林縁の半日陰に生育する多年生草本。高さ10–35 cm。葉は根生する。長柄があり羽状。頂羽片は大きく側羽片は1–2対で小さい。花期5–6月。穂状に多くの唇弁花をつけ、花冠は濃青紫色。雄しべは長く突出。和名は但馬地方にちなむ。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、八頭町、若桜町。県外：京都府北部、兵庫県北部。

■**保護上の留意点**：自生地の自然、植生保護、採取防止。

■**特記事項**：分布西限。国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆者：井上喜美子

ヒメナミキ シソ科
Scutellaria dependens Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



日南町 2017.8.20 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では湿地状の数カ所の草地に生育がみられるが、生育地の乾燥化や植生の変化にともなって衰退ぎみの場所がある。

■**特徴**：湿地性の草地に生育する多年生草本。細い地下茎を伸ばす。茎は直立し、高さ 20–40 cm 内外、無毛。葉は対生し、葉身は卵状三角形で長さ 1–2 cm。鈍頭で低鋸歯がある。花期は 6–8 月。花は葉腋につき、唇形で白色。休耕田に分布する場合は、年数の経過による遷移の進行とともに衰退傾向にみえる。

■**分布** 県内：鳥取市福部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：湿地、ため池、湿田の保全管理。

執筆者：藤原文子

ナミキソウ シソ科
Scutellaria strigillosa Hemsl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



米子市 2019.6.26 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内の海浜に点在する。自生地はいずれも小規模。海浜の縮小や海岸での工事、散歩などによる踏みつけにより各地で減少傾向。

■**特徴**：海岸沿いの砂地に生育する小型の夏緑性多年生草本。根茎は円柱形で長く地上をはい、ところどころに根を出す。茎は四角で分枝し、高さ 40 cm 内外。葉は対生する。柄があり、先の尖った心形で縁と両面に毛を散生する。葉は薄い。花期は 6–9 月。上部の葉腋に 1 個ずつ鮮やかな青紫色の花をつける。花冠は基部で急に折れ曲がる。花期には鮮やかな青紫色が目立ち、草むらの中でも見つけやすい。海浜の中で生える場所を移動しながら維持している。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、湯梨浜町、北栄町、米子市、境港市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自然海浜の保護・保全。小規模な改変にも注意。

■**文献**：85。

執筆者：藤原文子

エゾナミキ シソ科
Scutellaria yezoensis Kudô

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山町 2021.8.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：北海道以外では生育が希な種。2017 年に県内で発見され、分布南西限にあたる。生育個体数は少なく、現在は草刈りにより生育環境が維持されているが、管理放棄による生育環境の悪化が心配される。

■**特徴**：湿地や湿原に生育する多年生草本。ナミキソウに似るが茎や葉に毛がなく、稜の部分だけに上向きの短毛がある。花期は 8 月で、花は青紫色。生育地周辺には、ミソハギ、クサレダマ、エゾリンドウ、ナガボノワレモコウなどが生育している。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、青森県、長野県、岐阜県。

■**保護上の留意点**：自生地の山地草原の維持。

■**文献**：68。

執筆者：矢田貝繁明

テイネニガクサ シソ科

Teucrium teinense Kudô

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



氷ノ山 2005.9.4 / 撮影：小林禮樹

■**選定理由**：北方系の植物で、県内では氷ノ山のごく一部で確認されていたが、近年の甚大なシカ食害で見つけられなくなった。絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：山地の林下に生える多年草。茎は高さ 20 cm ほどになる。上部の節に開出毛があり、細長い走出枝を出す。葉は長楕円状卵形で長さ 5 cm 程度。鋭突頭で表面に長毛が散生する。花期は 8 月。花穂は短く苞は広卵形。花は白色で長さ 7 mm 程度。2016 年には氷ノ山探勝路につぼみをつけた個体が見られたが、開花を待って 1 週間後に再訪したところシカに食べられて消失していた。その後はシカの食害がひどく下層植生はほとんどみられない。県内山地で見られるニガクサの葉はほとんど無毛、茎は無毛または下向きの毛がある。花は淡紅色。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州（東北地方）。兵庫県（氷ノ山，扇ノ山，蘇武岳）。

■**保護上の留意点**：ブナ林自然植生保護と採取防止。ニホンジカの適正管理と食害防止。

■**文献**：4。

執筆：坂田成孝

カリガネソウ シソ科

Tripura divaricata (Maxim.) P.D.Cantino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2013.9.29 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：県内の自生地は東部と西部のごく一部に限られる。個体数も少ないため存続が懸念される。

■**特徴**：山地のやや湿った立地に生育する多年生草本で強い臭気がある。茎は直立して分枝し高さ 1 m 内外に達し方形。葉は対生し、1-4 cm の柄がある。葉身はややうすく広卵形で長さ 5-13 cm，縁には鋸歯がある。花期は 8-10 月，葉腋から集散花序をだし，まばらに花をつける。花冠は青紫色，2 唇形で大きく開口し，約 3-3.5 cm の雄ずいが花柱と共にわん曲して外に突き出る。この様子を雁に見立てたのが種名の由来といわれる。

■**分布** 県内：鳥取市，日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：生育地の維持・保全。

執筆：前田雄一

オオバミゾホオズキ ハエドクソウ科

Erythranthe sessilifolia (Maxim.) G.L.Nesom

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2010.6.2 / 撮影：田中修一

■**選定理由**：1987 年以來，県内では確実な記録がなかった。近年，東部 2 カ所で生育が確認されたが，1 カ所はその後シカの食害により見つからなくなった。

■**特徴**：山地溪谷沿い。常に水が滴るような岩場に生える多年生草本。地下茎をのばして小群生する。茎は分枝せず直立。高さ 20 cm ほど。葉は対生し無柄。葉身は広卵形で長さ 3-4 cm，突鋸歯縁。花期は 6-8 月と言われるが，県内では 5 月下旬-6 月。上部の葉腋に黄色の花をつける。萼は大型。広く見られるミゾホオズキは茎が分枝し葉柄があり，花は 1cm 程と小型。1987 年以降県内では生育記録が絶えていたが，2008 年に再発見された。しかし自生地周辺ではニホンジカの食害が激しく，残存個体も矮小化しており開花に至る個体はまれ。分布の西限にあたる。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（近畿以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然植生の保護，ニホンジカの適正管理。

■**文献**：108。

執筆：井上喜美子・一澤麻子・田中修一

ナンバンギセル ハマウツボ科
Aeginetia indica L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2021.9.7 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：ススキ草原の減少にともない本種の自生地が減少した。県内西部には比較的多いが、東部には少ない。

■**特徴**：山野に自生する1年生の寄生植物。宿主は単子葉のイネ科、カヤツリグサ科、ショウガ科などでススキが圧倒的に多い。花期は8-9月。茎は短く地中に数枚の鱗片葉が互生する。花茎は無毛で高さ10-30cm。先端に淡紫色で筒型、長さ約4cmの花を1個横向きにつける。4本の雄しべは花柱を取り囲み、黄色の微毛が密生する。萼は鞘状で長さ約3cm、淡紅紫色の縦じま模様が入り、下側の中ほどで深く裂け先端が鋭く尖る。県内西部ではため池土手のススキ草が主な自生地で、10本以上の集団が複数カ所で確認される。山地草原や高速道路脇のススキ群落にも自生地がある。

■**分布** 県内：八頭町、琴浦町、米子市、伯耆町、南部町。 県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。中国南部。

■**保護上の留意点**：採取禁止。自生地のススキ草原の維持管理。

■**文献**：19.

執筆者：浜田幸夫

オオナンバンギセル ハマウツボ科
Aeginetia sinensis G.Beck

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



江府町 2019.8.26 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育地となる山地草原が減少しており、生育条件が明らかに悪化している。県内では生育地、生育個体数ともに少ない。

■**特徴**：山地の草原に生育する1年生の寄生植物。イネ科の植物やスゲ類に寄生する。高さは20-30cm、8月中-下旬に紅紫色の花を咲かせる。近縁のナンバンギセルと比べてより花期が早く、萼片の先端が尖らず、花冠の縁に細かな鋸歯がある点で区分できる。現在確認している生育地はススキ草原と北東向きの風衝草原で、マツムシソウ、ヒカゲスゲなどの生育している斜面。生育地には低木類が定着しつつあり、樹林化すれば絶滅のおそれがある。花期以外には見つけにくいので、適期の調査努力が望まれる。

■**分布** 県内：三朝町、江府町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：風衝草原やススキ草原の維持管理、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

キュウシュウコゴメグサ ハマウツボ科
Euphrasia insignis Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) T.Yamaz. var. *kiusiana* (Y.Kimura) T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2021.9.19 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：県内では大山周辺や道後山に生育が限られ、大山の岩礫地や草原を代表する植物。

■**特徴**：日当たりのよい高山の岩礫地や草原に生育する1年生草本。高さ10-20cm。葉は対生し倒卵形-菱形状円形。花期は7-9月。白色の唇形の花をつける。本種を含むミヤマコゴメグサの仲間は本州、四国、九州の山岳に広く分布するが、隔離分布のため地域ごとに少しずつ形態が異なり、多くの変種に分類されている。キュウシュウコゴメグサは葉が卵形で鋸歯が鋭くとがる。がく片は短く、花冠の長さががく片の2.5倍になる点で区別される。

■**分布** 県内：大山周辺、毛無山周辺、道後山。 県外：本州（近畿北部、中国地方）、九州（北西部）。

■**保護上の留意点**：岩礫地や草原の植生保護、踏みつけ防止、採取禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106.

執筆者：鷲見寛幸

ツシママコナ ハマウツボ科

Melampyrum roseum Maxim. var. *roseum*

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山 2012.9.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では西部の山地草原のみ確認されているが、点在するママコナと区別した希少性、絶滅可能性の調査が必要である。

■**特徴**：山地の草地に生える半寄生の1年生草本。茎は高さ30 cm程度。葉は長卵形、両端はとがり、短毛を散生、長さ6 cm前後。枝先の長さ15 cm前後の花序に花をまばらにつける。花軸には毛が少ない。花冠は紅紫色、花喉の両側に白色の斑がある。苞の歯牙が少ない。大山麓の草地に見られるが、周囲の草丈が高く目立たない。県内に点在するママコナは花序が10 cm以下、多くの花をつけ花軸や萼には白毛が密に生える。苞は葉状で両縁に刺毛状の長い歯牙がある。ママコナと検討調査する必要がある。

■**分布** 県内：大山、日野町、日南町。県外：本州（中部の山地）、中国地方西部、九州北部。

■**保護上の留意点**：山地の草地保護と生態調査。

執筆者：坂田成孝

ハマウツボ ハマウツボ科

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2014.6.4 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内の海浜に生育するが生育地は限定的で、生育環境は攪乱され、生育基盤が脆弱である。

■**特徴**：海岸や河川の砂地に生える1年生の寄生植物。県内では海岸砂地のカワラヨモギに寄生する。葉緑体を持たず、葉は鱗片状に退化している。花期は6月。海岸林育成による海浜草原の縮小や外来植物の繁茂、景観を優先した海浜管理などでカワラヨモギ群落が減少し、ハマウツボもしだいに見られなくなってきた。古くから存在が知られており、鳥取藩の本草学者平田眼翁の記した『因伯産物薬効』にも産地等が記載されている。

■**分布** 県内：鳥取市、北栄町。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：海岸砂地の保全、カワラヨモギの生育する環境の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：39, 64。

執筆者：清末幸久

トモエシオガマ ハマウツボ科

Pedicularis resupinata L. subsp. *teucrifolia* (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. *caespitosa* Koidz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2014.8.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山上部のやや湿り気のある草地に生育する。生育地の崩落などにより個体数は以前に比べて減少している。

■**特徴**：山地の草地に生育する多年生草本。北海道—九州に分布するシオガマギクの変種。シオガマギクでは花が花序にまばらにつくのに対し、トモエシオガマは花序の先端に密集してつく。それぞれの花が同じ向きに曲がっていて、上から見ると巴の形に見える。大山では6合目付近から山頂までのヤマヤナギやナンゴククガイソウが生育しているやや湿り気のある草原に生育する。

■**分布** 県内：大山山域（大山町、江府町）。県外：北海道、本州（近畿以北）。

■**保護上の留意点**：生育地の草原維持、登山者による攪乱防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

キヨスミウツボ ハマウツボ科
Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



智頭町 2020.7.9 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：生育地が限られ、年により少しずつ異なる場所に出現する。開花数の年変動が大きく個体群の維持にも懸念がある。

■**特徴**：丘陵地や山地の湿った落葉広葉樹林下に生育する多年生の寄生植物。色素を持たず白いキノコのように見える。カシ類やアジサイ類のほか、様々な植物の根から養分を摂取する。茎はほとんど地中にあり2-8 cm、鱗片状に退化した葉に密に覆われる。花期は6-7月で、茎頂に5-10個の花を頭状につけ花穂を形成する。花冠も白色で3-5 cmの筒状。花には芳香型と無香型があり、芳香型は虫媒、無香型は自家受粉で結実する。4, 5日で花は終わり楕円形の白い液果をつける。夏期以降地上部は消える。開花期にしか認識できない上、現れる場所が移動するため生育状況の把握が難しい。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、琴浦町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：生育地森林の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：71,106,108.

執筆者：一澤麻子

ヒキヨモギ ハマウツボ科
Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



琴浦町 2021.8.20 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：生育に適した草原が減少したため、県内の生育地、生育個体数ともに減少した。今後も生育環境の悪化は進み、さらに減少する可能性が大きい。

■**特徴**：日当たりのよい草地に生育し、イネ科植物に半寄生する1年生草本。茎は直立し高さ50 cmになって上部で枝分かれする。葉は対生し葉身は羽状に深く裂ける。花期は8-9月で上部の葉腋に黄色の花を横向きに咲かせる。海岸部や山地の草原に生育しているが、草原の放棄や火入れの減少など生育地の環境変化により減少し、2021年には船上山の草地以外で確認できないほど減少が著しい。

■**分布** 県内：岩美町、三朝町、琴浦町、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育適地となる半自然草原の維持。

■**文献**：108.

執筆者：矢田貝繁明

オオヒキヨモギ ハマウツボ科
Siphonostegia laeta S.Moore

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



若桜町 2014.8.29 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の岩崖地に自生が確認されている。1年生植物で個体数変動が大きいため、個体群の存続に強い懸念がある。

■**特徴**：山地の岩崖に生える1年草。茎は岩をほうように伸びて長さ50 cmぐらい、葉とともに開出した腺毛が生える。葉は卵形、大きな裂片に裂け、長さ2 cmほど。葉腋に1花をつける。花冠はくすんだ黄色。萼は細い筒形で開出した腺毛が密生する。県内では若桜町の岩崖地にイワガサやエゾカワラナデシコと混生している。近年崖地の届きやすい場所の個体はシカの食害で消滅している。県内中西部の山地に見られる近縁のヒキヨモギは全体に短毛が生え花は鮮黄色。萼に曲がった短毛が生え、茎は直立する。

■**分布** 県内：鳥取市福部町、若桜町。県外：本州（関東以西）、四国。

■**保護上の留意点**：自生地岩崖および周辺の自然植生保護。ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆者：坂田成孝

イヌタヌキモ タヌキモ科

Utricularia australis R.Br.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



南部町 2017.8.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内のため池内など止水域に生育する食虫植物。ため池の減少や改修工事により生育に適した環境が減少している。

■**特徴**：ため池などに浮遊する多年生の水生浮遊植物。茎は細く長く伸びて1 mにも達する。葉は細く羽状で基部から2分枝を繰り返して広がり、捕虫嚢を多数付ける。花期は8-9月で、水面上に高さ20 cm程の花茎を伸ばし黄色の花をつける。花茎の断面は中実。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市，八頭町，倉吉市，大山町，米子市，伯耆町，南部町，江府町，日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ため池の適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ミミカキグサ タヌキモ科

Utricularia bifida L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2021.8.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は2カ所のみ，生育範囲はきわめて狭い。確認されている生育地は，池の周辺と土手下の湿地で，継続的に草刈りが行われているが，個体数はわずかである。

■**特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし，小さな捕虫嚢をつける。葉は地下茎の各所から地上に出し微小。花茎は細長く伸び10-17 cm。花は黄色で約7 mm。水位の変化するため池縁などで生育例があり，ミミカキグサの仲間では最も生育範囲が広いとされる。県内の生育地はため池周辺とその土手下にある小規模な湿地で，草刈りが毎年行われており，ここ最近では安定している。他の植物に被圧されやすく湿原の保全管理の継続が必要。

■**分布** 県内：鳥取市，米子市。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：草刈りや水分条件など生育する湿地の管理継続。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ホザキノミミカキグサ タヌキモ科

Utricularia caerulea L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2021.8.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：湿地の草刈り復活により2009年に生育を再確認した。県内の生育地は1カ所のみで，個体数も種の存続が懸念される危機的水準のままである。

■**特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし，小さな捕虫嚢をつける。地下茎から株状にへら形の微細な地上葉を出す。花茎は細く伸び，長さ10-25 cm，花は淡紅紫色で約8 mm。距は前方に突き出す。以前に知られていた生育地では一時確認できなくなっていたが，草刈りを実施したところ再確認できるようになった。草刈り継続が存続のカギ。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：草刈りや水分条件など生育する湿地の管理継続。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ムラサキミミカキグサ タヌキモ科
Utricularia uliginosa Vahl

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2021.8.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は3カ所で、互いに隔離分布している。生育地は湿原やため池跡地などで、生育環境の変化による絶滅が心配される。

■**特徴**：日当たりのよい山地の貧栄養湿原に生育する微小な多年生食虫植物。地中に糸状の地下茎を張りめぐらし、小さな捕虫囊をつける。葉は地下茎の各所から地上に出すが微小。花茎は細く伸び、長さ10-15 cm、花は紫色で約4 mm とミミカキグサ類の中で一番小さい。距は下向き。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも多少有機物の多い土壌を好むとされる。

■**分布** 県内：岩美町、米子市、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈りや水分条件など生育する湿地の管理継続。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

タマミズキ モチノキ科
Ilex micrococca Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



南部町 2021.11.30 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は倉吉市関金町と南部町の2カ所で、生育個体数も少ない。伐採されない限り今のところ絶滅の心配は少ない。

■**特徴**：本州中部以西-九州の山地に生育し、樹高10-15 mに達する落葉高木。雌雄別株。葉は互生し、葉身は長さ8-12 cm、幅3-6 cmの卵状長楕円形で縁に細かい鋸歯がある。花期は6月で緑白色の花を多数つける。果実は径3 mmの球形で赤く熟し、落葉後の初冬によく目立つ。多数の赤い実をつけている様子を遠目にイイギリと片付けられ、これまで注目されていなかったが、イイギリのように果序が房状に下垂はしない。

■**分布** 県内：倉吉市、南部町。県外：本州（中部以西）、九州。

執筆者：矢田貝繁明

ミヤマウメモドキ モチノキ科
Ilex nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



日野町（雄株） 2021.6.15 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は西部地区の湿地に限定されており、環境変化により生育適地が減少してきている。

■**特徴**：山地の湿原に生育する落葉小高木。高さは2-4 m。雌雄異株。葉は短枝に密につき、倒披針形で互生して、ウメモドキより細長い。6月末に白い花を咲かせる。花柄がウメモドキより長く3-7 mmほど。雄花序は4-6花、雌花序は2-4花をつけ、径4 mmほど。果実は球形で秋に赤く熟す。県内の生育地は日野郡内の湿った原野で、ハンノキ、ハイイヌツゲ、ノリウツギなどと混生している。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：本州（東北-中国地方）の日本海側。

■**保護上の留意点**：生育環境の変化防止、湿地の保護と採取防止。

執筆者：矢田貝繁明

フクシマシャジン キキョウ科

Adenophora divaricata Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2014.8.23 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：ここ10年で個体数が激減した。2カ所の生育地はどちらも個体数が10本以下であり、絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：山地のやや乾いた草地に生える多年生草本。高さは50–100 cm内外、開出する白毛が多い。葉は3–5枚輪生するが、時に対生または互生し無柄。葉身は卵状楕円形で長さ5–10 cm。花期は8月。茎頂にまばらな円錐花序を出す。花は下向き、花冠は淡紫色–白色の鐘状で先はやや広がり、浅く5裂する。花柱は花冠から少し突出。萼裂片は披針形で全縁。よく似たツリガネニンジンの萼片は線形で鋸歯がある。2007年に発見された集団は衰退著しく絶滅の可能性が高い。もう1カ所は10本以下ではあるが、今のところは現状維持している。

■**分布** 県内：江府町、日南町。 県外：本州（中部地方以北）。

■**保護上の留意点**：山地草原の維持管理及び周辺森林の保護。道路の維持管理の草刈りに注意が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

シデシャジン キキョウ科

Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2017.8.2 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では日南町にのみ生育するが、生育地点は減少し個体数も減少している。他の草本類に被圧されている影響が大きい。

■**特徴**：山地の明るい林縁などに生育する多年生草本。全体に粗い毛を散生し、茎の高さは50–100 cm内外。葉は互生で卵形–狭卵形、縁に不揃いの鋸歯がある。花期は7–8月。花序はやや穂状で株は分枝する。苞と萼は線形。花冠は深く分裂して開出し、裂片は線形で長さ10–12 mm、やや反曲する。花柱は突出する。花糸は基部が太く縁に毛がある。

■**分布** 県内：日南町。 県外：本州、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の草刈りにより、他の草本からの被圧を軽減する必要がある。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

ヤマホタルブクロ キキョウ科

Campanula punctata Lam. var. *hondoensis* (Kitam.) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2021.7.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は大山山域に限定されており、生育本数も少ない。また県内の生育地は分布西限と思われる。大山山頂付近や登山道脇などに生育している。

■**特徴**：山地の林縁や道端に生育する多年生草本。茎は高さ10–50 cmで、6–7月に白色の花を咲かせる。ホタルブクロには萼裂片の湾入部に反り返る付属片があるが、ヤマホタルブクロは、湾入部に膨らみがあるだけである。

■**分布** 県内：大山町、伯耆町。 県外：本州（東北南部–近畿東部）。

■**保護上の留意点**：登山者などによる踏みつけ防止。

執筆者：矢田貝繁明

サワギキョウ キキョウ科
Lobelia sessilifolia Lamb.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



鳥取市国府町 2014.8.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：湿地や湿地状のため池に生育するが、ため池の管理放棄や湿地の乾燥化にともない減少が顕著。園芸・切り花目的で採取されることもある。

■**特徴**：湿地やため池周辺の水湿地に生育する大型の多年生草本。茎は円柱形で中空、高さ1mになる。葉は無柄で互生、披針形、縁に細かい鋸歯がある。花期は8-9月。総状花序を出し花は濃紫色。花冠は唇形、上唇は2深裂、下唇は浅く3裂する。おしべの葯と花糸が合体し花柱が貫く。岩美町唐川、国府町菅野の保全地域では安定しているが、山間の小湿地ではヨシなどの高茎草本や周辺樹木の繁茂による環境変化で減少。山間地の水田耕作休止により小湿地がなくなり、八頭郡、鳥取市気高町では絶滅した。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、三朝町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地およびため池の保全管理と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

キキョウ キキョウ科
Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岩美町 2014.8.28 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：2002年の調査では県内に点在とされていたが、その後の草地の減少にともない希少化が著しい。

■**特徴**：日当たりの良い草原に生育する夏緑性の多年生草本。根は太く多肉。高さ40-90cm。葉は互生だがときに対生、輪生する。花期は7-9月。花は青紫色で径4-5cm、浅く5裂する。秋の七草として親しまれており、よく知られている。

■**分布** 県内：岩美町、湯梨浜町、三朝町、琴浦町、大山町、伯耆町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地草原の維持。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆者：井上喜美子

ミツガシワ ミツガシワ科
Menyanthes trifoliata L.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



三朝町 2013.5.9 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の限られた湿原に離散的に分布しているのみで、個体数も少ない。本種は異形花柱であり、種子繁殖のために長花柱花と短花柱花の個体が近接して生育している必要があるが、その条件を満たすのは県内では2カ所のみである。

■**特徴**：冷温帯の池沼、流水沿い、湿原にしばしば群生する夏緑性の多年生抽水草本。暖温帯にも氷期からの残存とみられる個体群が隔離的に分布することがある。地下茎は横走、太円柱形。葉は互生、3出複葉で基部は鞘状。小葉は長楕円形、鈍頭、肉厚、長さ約10cm。花期は初夏、花茎約30cmの総状花序をつくる。花は帯紫白色。5裂平開し白長毛が密生する。和名は大型の小葉をカシワの葉に見立てたもの。胃腸薬として利用された。

■**分布** 県内：鳥取市、三朝町。県外：北海道、本州、九州。西南日本では隔離分布。

■**保護上の留意点**：採取防止。池沼、湿原の保全・再生。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：34。

執筆者：日置佳之

ヒメシロアサザ ミツガシワ科

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

鳥取県：野生絶滅 (EW)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子水鳥公園（栽培） 2021.9.27 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：2005年に中海・安倍処分地で発見された株を米子水鳥公園で系統保存のため栽培している。自生地はすでに埋め立てられており野生絶滅。

■**特徴**：ため池や水田、休耕田の浅い水域に生育する浮葉植物。葉は楕円-円心形で幅2-4cm。葉の表面に紫褐色の斑状模様があることがあり、裏には粒状の腺点がある。花は白色で花冠は5裂する。花弁の縁に毛があり、アサザよりもガガブタに似るが、径は1cm以下で極めて小さい。花期は7-9月、開花時のみ花を空中に出し、花が終わると水中に束状に果実を作る。結実率は大変高く、放出された多くの種子が水に浮く様子が見られる。

■**分布** 県内：野生絶滅。 県外：北海道、本州、四国、九州、大東島。

■**保護上の留意点**：生育環境の復元、汽水域の保全。解放水面の残った休耕田で生育している可能性がある。調査努力が必要。

■**特記事項**：米子水鳥公園では2021年まで持続的に系統維持されている。

執筆者：神谷 要

ガガブタ ミツガシワ科

Nymphoides indica (L.) Kuntze

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



島根県 2021.9.28 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では1954年に岩美町で採集された標本があるが、生育していた池がなくなり、現在は生育確認できない。

■**特徴**：ため池などに生育する多年生の浮葉植物。浮葉の下には長い茎があり、浮葉直下から新しい茎が伸びて葉を展開する。葉は大型で径7-20cmのほぼ円形。花期は7-9月で、白色の径約1.5cmの白色の花を水面上に咲かせる。県内では近年の生育は報告されていない。

■**分布** 県内：絶滅。 県外：本州、四国、九州。

執筆者：矢田貝繁明

アサザ ミツガシワ科

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



北栄町 2021.9.29 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：既知の県内自生地から消失し確認情報が途絶えたことからEXであったところ新規に発見された。自生地の生育環境は脆弱で再びの絶滅が心配される。

■**特徴**：ため池や湖沼などに群生する多年生の浮葉植物。地中の地下茎から水中茎を伸ばし、卵形-円形の葉を水面に展開する。地下茎から直接伸びる葉もある。葉は径4-10cmほど、低い鈍鋸歯があり、縁が波状になる。花期は6-9月、異型花柱性の黄色の花をつける。以前の図鑑では県内東部に分布点が記されていたがその後絶滅した（文献参照）。2020年12月に北栄町のコンクリート護岸の小河川で群落が再確認された。現在まで移入の情報なく自生と想定される。伯耆町根雨原の堤にも生育するが、聞き取りによりこの集団は人為的な移入であることが判明している。

■**分布** 県内：北栄町。 県外：本州、九州。ユーラシア大陸の温帯地域。

■**保護上の留意点**：生育する河川の保全。除草作業時の配慮。

■**文献**：25, 108, 109.

執筆者：清末幸久

ヌマダイコン キク科
Adenostemma lavenia (L.) Kuntze

鳥取県：絶滅 (EX)
環境省：—



鳥根県 2017.9.19 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内では 1982 年に低地の用水路泥湿地に採集記録がある。用水路の改修で泥湿地がなくなり、その後は長期にわたり生育確認がない。
- 特徴**：低地の泥湿地に生育する多年生草本。茎は基部で湾曲、高さ 1 m ほどになる。葉は対生、有柄、卵状楕円形、鈍鋸歯縁、両面にまばらに短毛がある。花期は 9–11 月。長い花柄をもつ白色の頭状花をつける。総苞は半円球で花後に反り返る。瘦果は根棒状で小突起または腺点がある。南部町の自生地は用水路のコンクリート化による泥湿地消失で絶滅したと思われる。鳥取市の自生地は低地湿地で、用水路の改修により生育環境がなくなるとともに休耕によりヨシ群落となった。長期にわたり県内での生育確認ができないことから絶滅と判定している。
- 分布** 県内：絶滅。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：低地の用水路周辺泥湿地の維持。

執筆者：坂田成孝

チョウジギク キク科
Arnica mallotopus Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



三朝町 2014.9.9 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内ではブナ帯の多雪地に点在。沢沿いや岩隙などに生育し生育基盤が脆弱で個体群が不安定。シカの食害もある。
- 特徴**：ブナ帯域沢沿いの水湿斜面や岩隙に生育する多年生草本。地下茎が横にはい茎は株立する。高さ 30–70 cm で茎の上部に縮毛がある。葉は対生し、葉は長さ 5–10 cm。花期は 8–10 月。茎頂に黄色の頭状花を散房状につけ花は横向きに咲く。花柄は長く密に白毛がある。別名クマギク。
- 分布** 県内：氷ノ山、三国山、三徳山、大山。県外：本州、四国の多雪地帯。
- 保護上の留意点**：ブナ帯沢沿いの自然植生保護。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：108.

執筆者：井上喜美子

ハマベノギク キク科
Aster arenarius (Kitam.) Nemoto

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取砂丘 2018.11.6 / 撮影：永松 大

- 選定理由**：砂丘のほか、県内の海浜に点在する。海浜が後背地を含め自然状態で維持されれば存続できるが、群落はいずれも小規模。
- 特徴**：海岸の砂地や岩場に生育する越年生草本。基部から分枝して株状になり地をはう。枝の先は立ち上がって大きな頭花をつける。ロゼットで越冬する。根出葉は花期には枯れる。茎葉も多数、葉はさじ形で縁に毛があり厚い。8–10 月に開花するものが多いが、個体により花期は前後に長い。茎頂に径 4 cm ほどの頭花を 1 個つける。砂丘地周辺に多く、砂の上ではほとんど地面から立ち上がらない。鳥取砂丘では以前の危機的な状態から少し増加した印象である。
- 分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、福部町、気高町、青谷町）、湯梨浜町、北栄町、米子市。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：海岸部の自然植生保護・保全。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：64.

執筆者：永松 大

シマカンギク キク科

Chrysanthemum indicum L. var. *indicum*

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2019.11.21 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：2002年初版掲載のサンインギクはシマカンギクとイエギク（園芸菊）との雑種で野生植物としての実体がなく、2012年改訂版から野生種であるシマカンギクをその他の重要種として掲載。シマカンギク個体群にはイエギク類との交雑による雑種化（遺伝子汚染）が懸念されている。

■**特徴**：海岸部や日当たりの良い山ぎわに生育する多年生草本。茎は叢生し、高さ30–80 cmになる。葉には柄があり、洋紙質で羽状に5中裂し裂片には鋸歯がある。裏面はT字伏毛があるが淡緑色。花期は10–12月で径2.5cm程度の黄色の頭花を散房状につける。総苞片は4列。サンインギクはシマカンギクに比べ頭花が大きく径3–4 cm、時に半八重になり舌状花は白色または黄色、総苞片は3列。染色体数 $2n = 54$ でシマカンギク6倍体とイエギクとの自然雑種、各地にみられる。

■**分布** 県内：鳥取市（河原町、用瀬町）、智頭町（詳しい調査が必要）。県外：富山県以西の近畿、中国、九州。

■**保護上の留意点**：雑種の特徴を示す個体は野生種保護のため除去。

■**文献**：73。

執筆：永松 大

ワカサハマギク キク科

Chrysanthemum wakasaense Shimot. ex Kitam.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2013.11.12 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：種の分布がせまく、鳥取県内の個体群は分布西限の個体群として貴重。植生遷移や海岸部の開発により個体数は減少。園芸菊との交雑による遺伝的汚染も懸念される。

■**特徴**：海岸や海岸近くの内陸丘陵地の日当たりの良い崖地に生育する多年生草本。花期は11月、直径3 cmほどの白色の頭花をつける。リュウノウギクに似るが、ワカサハマギクは $2n = 36$ の四倍体で草姿や葉、頭花が全体に大きい。鳥取市内では丸山町など内陸の数カ所の崖地に、そのほか県内東部の海岸近くの道路路面などに生育。イエギクとの雑種と思われる個体もみられ要注意。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、福部町）。県外：鳥取県—福井県の日本海側海岸。

■**保護上の留意点**：周辺樹木の適度な伐採。雑種の特徴を示す個体は野生種保護のため除去。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：70, 72。

執筆：永松 大

イワギク（広義） キク科

Chrysanthemum zawadskii Herbich

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



琴浦町 2017.10.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では山地の岩場2カ所にわずかに生育する。個体数が限られ生育基盤は脆弱である。

■**特徴**：山地の岩場に生える小型の多年生草本。葉は互生し広卵形で葉身は2–4 cmほど、羽状に深く切れ込み光沢がある。花期は10月、高さ20–30 cmの茎の先に1個ずつ頭花をつける。頭花は径3–6 cmほどで大きくてよく目立つ。県内では船上山と氷ノ山にて自生が確認されており、秋の花時に観察しやすい。

■**分布** 県内：若桜町、琴浦町。県外：本州、四国、九州。東アジア、シベリア、東欧。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：8, 106, 108。

執筆：磯江茂秋

ムラクモアザミ キク科
Cirsium maruyamanum Kitam.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



江府町 2021.7.10 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：1937年に新種記載された際の模式産地は日南町多里であるが、現在はみつからない。江府町で特徴が似た個体が見つかった(写真)が、種同定には至っていない。

■**特徴**：中国地方の山間地で記録されている多年生草本。草丈は50-90 cm。根出葉は長楕円形で羽状に深裂し、先端に3-4 mmのトゲがある。茎葉は基部が広く茎を抱く。花期は5-7月で総苞片に発達した腺体を持つ。1937年の新種発表以来発見例がなかったが、1972年に島根県飯南町、2002年に広島県三次市ほかでごく少数が発見された。本種は雑種や雑種起源との指摘がある(文献)。2012年版RDBに掲載の鳥取県立博物館所蔵標本(大山町採集)はY.Kadotaの再同定(2012)によりケショウアザミ *C. japonicum* var. *vestitum* とされた。

■**分布** 県内：確実な自生地なし。 県外：本州(島根県, 広島県)。

■**保護上の留意点**：継続的な調査努力。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：23, 27, 108, 111.

執筆者：清末幸久

サンベサワアザミ キク科
Cirsium tenuisquamatum Kitam.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2021.10.22 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部のみに自生し個体数も少ない。調査努力により新たな生育地が確認され、CR+ENからVUに変更になった。

■**特徴**：山間の湿潤地に生育する大型の多年生草本。県内では用水路沿いや農道わきに20-100個体程度が生育している。茎はくも毛があり高さ50-100 cm内外。根出葉は大形で狭楕円形、粉白色を帯びやや薄質。羽状中裂し粗鋸歯縁がある。刺針は少なく花時まで残る。茎葉はやや茎を抱く。花期は10-11月。茎頂に単生し径5 cmで淡紅紫色の頭花をつける。総苞にくも毛があり頭花基部には苞葉がある。花後は直立する。農道等の草刈りがされなくなったことで個体数が減少した場所がある。

■**分布** 県内：江府町, 日野町, 日南町。 県外：島根県, 広島県, 岡山県。

■**保護上の留意点**：草刈り等による農道, 林縁の管理。地元への啓発。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

ヒゴタイ キク科
Echinops setifer Iljin

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



岩美町 2021.8.18 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内では東部の海岸1カ所のみに生育。この10年間で個体数が減少し、絶滅の瀬戸際にある。

■**特徴**：典型的にはやや乾いた山地草原に生育する夏緑性の多年生草本。草丈は1 mほどになり、茎にはくも毛を密生して白く見える。上部で少数が枝をわける。葉には長柄があり葉身は羽状深裂する。裏はくも毛で白色。花期は8月、頭花は集まって径5 cmほどの特徴的な球形となる。九州の草原に多かったとされるが、採取圧と草原利用の減少により現在はまれ。県内では海岸の風衝草原に散生しているが、個体数が減少するとともに残った個体が衰弱しており、2021年より積極的な保護活動の準備に入っている。

■**分布** 県内：岩美町。 県外：本州(中部以西, 極めてまれ), 九州。

■**保護上の留意点**：海岸風衝草原の維持管理。種の積極的な保護管理活動。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種, 鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：61.

執筆者：永松 大

フジバカマ キク科

Eupatorium japonicum Thunb.

鳥取県：野生絶滅 (EW)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



栽培 2019.10.21 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では以前に千代川河川敷で確認されていたが、2004年の出水とその後の復旧工事により絶滅した。現在はとっとり花回廊にて千代川由来の系統を栽培。

■**特徴**：河原や河川の堤防などに群生する多年生草本。茎は高さ 1.5 m に達する。葉は対生して明らかな葉柄があり、上部の葉は 3 裂する。花期は 8 月。頭花は散房状に多数つき強い芳香がある。総苞は紅紫色を帯びる。古くから秋の七草に数えられ、普通種であったことが想像されるが、河川の攪乱減少などにより各地で希少化が進んでいる。千代川では下流域のせまい高水敷に群落があり刈り払い等からは保護されていたが、台風出水により堤防直下までえぐられて群落全体が消滅した。復旧工事後は環境も変わり生育は見られない。

■**分布** 県内：野生絶滅。県外：本州，四国，九州。朝鮮半島，中国。

■**文献**：113.

執筆：永松 大

ヤナギタンポポ キク科

Hieracium umbellatum L. var. *japonicum* H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



江府町 2020.8.19 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は西部地区の数カ所に限られて生育個体数は少ない。過去に記録のある中西部の道端，草原，湿原など消失した場所もある。近年，数カ所の生育地が確認され，既存の生育地は現状維持のため，改定前の CR+EN から今回 VU に変更。

■**特徴**：山地の日当たりのよい湿地や湿った草原に生育する多年生草本。高さ 50–80 cm。茎葉は多数互生し，長楕円披針形で先はとがり，少数の鋭い鋸歯がある。荒い毛があつて触るとざらつく。8–9 月頃，茎頂に多数の黄色の頭花をつける。径 3 cm ほど。頭花は筒状花がなく舌状花だけからなり，ニガナに似る。

■**分布** 県内：大山町，伯耆町，江府町。県外：北海道，本州，四国。

■**保護上の留意点**：道路維持管理時の刈り払い防止，被圧木の除去。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

カセンソウ キク科

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



湯梨浜町 2017.7.11 / 撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内では海岸沿いの草地や山地の草原に見られるが，個体数は少ない。

■**特徴**：山地の草原や海岸沿いの日当たりのよい草地に生育する多年生草本。茎は直立し 50 cm ほどになる。上部で枝をわけ頭花を 1 個ずつつける。花期は 7–9 月。頭花は 3 cm ほどで周囲に舌状花がつき内側は筒状花となる。葉は細長く互生して紙のように乾いた感じでざらつく。道路沿いでは維持管理で刈られてしまうことが多いが，草地を維持することも重要。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市（福部町，気高町，青谷町），湯梨浜町，琴浦町，江府町。県外：本州（山形県以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生草地の維持管理。地元の方への啓発。

■**文献**：106, 108.

執筆：磯江茂秋

ウスユキソウ キク科
Leontopodium japonicum Miq. var. *japonicum*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



氷ノ山 2012.8.6 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では氷ノ山の岩壁に小数が自生するのみで生育基盤が脆弱。シカの食害もある。
- 特徴**：山地の乾いた草原や岩場に生育する夏緑性多年生草本。ウスユキソウ属の他の種は全て高山にしか生えないが、ウスユキソウは分布範囲が広く、ブナ帯から見ることができる。高さ 25–50 cm。茎葉を多数つけ、無柄で披針形。葉の綿毛は、表面は少なく裏面は密生。白く花びらのような部分は苞。ウスユキソウ属の他の種では苞の白い毛が密生するが、ウスユキソウでは少ない。
- 分布** 県内：若桜町。県外：本州，四国，九州。中国。
- 保護上の留意点**：山地森林の保護。ニホンジカの適正管理。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：108.

執筆者：井上喜美子

マルバダケブキ キク科
Ligularia dentata (A.Gray) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



江府町 2020.8.19 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内の自生地は少なく、個体数も少ない。自生地の乾燥化にともなって草原化がすすみ個体数が減少している。
- 特徴**：日当たりのよいブナ帯域の湿った草原に生育する多年生草本。茎は直立し高さ 1 m にもなる。茎は直立して太く根出葉は長柄をもつ。葉身は丸くて大きい。花期は 7–8 月。葉の先に散房状に頭花をつける。頭花は径 5 cm 前後で黄色。舌状花は長い花冠をもつ。花時には遠くからでもよく目立つ。頭花の形はトウゲブキに似るが県内には分布しない。
- 分布** 県内：江府町。県外：本州中部以北，四国。
- 保護上の留意点**：山地の湿った草原の維持。
- 文献**：8, 106, 108.

執筆者：磯江茂秋

メタカラコウ キク科
Ligularia stenocephala (Maxim.) Matsum. et Koidz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



氷ノ山 2013.8.26 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県東部の限られた場所だけに生育し個体数も少ない。湿潤な急傾斜地や崖錐の不安定な場所で生育基盤は脆弱。シカの食害による個体数の減少が心配される。
- 特徴**：ブナ帯の溪谷沿いの湿潤な露岩地や傾斜地などに生育する多年生草本。根茎は太く、高さ 30–70 cm。根出葉は三角状心形。鋭尖頭葉の基部はほこ形。花期は 6–9 月。総状に黄色の頭状花を多数つける。頭花の舌状花は 1–3 個程度。近縁のオタカラコウは県内ではより分布が多い。オタカラコウは全体に大きく、葉の基部が心形になり、頭花の舌状花が 8 個ほどある。
- 分布** 県内：若桜町，三朝町。県外：本州，四国，九州。
- 保護上の留意点**：溪谷沿いの自然植生保護。シカの食害。
- 文献**：108.

執筆者：井上喜美子

オオモミジガサ キク科

Miricacalia makinoana (Yatabe) Kitam.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2015.8.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部のブナ帯溪谷に局所的に生育。深山溪谷に生育するため大雨や倒木によるかく乱の影響を受け、個体数の変動が大きい。近年シカの食害で個体数が激減し、絶滅のおそれがある。

■**特徴**：県内では氷ノ山の溪谷の湿った場所に生育する大型の多年生草本。茎は高さ1mほどになり、全体に縮れた毛がある。茎葉は2-3枚が互生、下部の葉は長柄があって葉身が大きく、円形で基部心形、掌状に9-12深裂する。花期は7-8月。総状花序に20個ほど淡黄色の頭花をつける。谷間の斜面に群生するため、大雨により個体が流され減少することがある。近年シカの食害で溪谷の群落がなくなった。県が管理する防鹿電気柵の中に群落が残っている。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、若桜町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然環境保護。ニホンジカの適正管理，食害防止継続。

執筆者：坂田成孝

フクオウソウ キク科

Nabalus acerifolius Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2019.9.16 / 撮影：時岡昭人

■**選定理由**：県内では生育地が東部の一部に限定され、個体数が少ないうえに開花株数もごく小数である。

■**特徴**：ブナ帯域の溪谷の岩場に生育する多年生草本。地下茎が匍匐し地上茎は30-80cmで全体に白い腺毛が目立つ。根出葉は広卵形で3-7裂、葉柄は長く、翼がある。8-9月に1cmあまりの青白-紫白色の頭状花を円錐状に多数つける。花は横向きか下向きで雄しべが突出する。近年、個体数は減少傾向。溪流近くでは豪雨により流出し、岩壁のものは猛暑年に開花に至らず枯れてしまうものが多いため、開花株数が少ない。

■**分布** 県内：氷ノ山，鳥取市佐治町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地岩場の自然林の保護。

執筆者：時岡昭人

ウスゲタマブキ キク科

Parasenecio farfarifolius (Siebold et Zucc.) H.Koyama var. *farfarifolius*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2014.10.25 / 撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内各地のブナ帯域山林内に点在するが、個体数は少ない。

■**特徴**：山地の林内に生える多年生草本。県内ではブナ帯域でみられる。葉柄が長く、葉は三角状心形で表面にはあらい毛がある。裏面の綿毛は少ない。茎の高さは60cm前後、花期は8-10月。茎の先に頭花をつける。花は全て頭状花のため花弁状のものは見えず地味な印象。葉腋にむかごができるのが特徴。

■**分布** 県内：若桜町，琴浦町，江府町，日野町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の植生保護。

■**文献**：31, 106, 108, 109.

執筆者：磯江茂秋

ニシノヤマタイミンガサ キク科

Parasenecio yatabei (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. *occidentalis* (F.Mack. ex Kitam.) H. Koyama

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2021.7.24 / 撮影：國野和昭

■**選定理由**：県内の確認地は2カ所で前回から確認地が1カ所増えた。スギ造林地内から隣接した落葉樹林下にかけて生育しており、スギの伐採により影響を受ける可能性が高い。

■**特徴**：ヤマタイミンガサの変種で、深山のやや湿った落葉樹林下に群生する多年生草本。葉は2-3枚で、下部の葉には長い葉柄がある。葉身は幅30cmを超える掌状円形で、鋭く切れ込み、基部は深い心形となる。花期は7-9月。50-100cmの茎が分枝して円錐花序となり、小さな頭花を多数付ける。シカの嗜好性は低い。兵庫県では被害が報告され始めている。

■**分布** 県内：鳥取市、琴浦町。県外：本州（岐阜県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の自然植生保護。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：國野和昭

カシワバハグマ キク科

Pertya robusta (Maxim.) Makino var. *robusta*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2010.10.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：里山二次林の放置で生育環境が悪化し自生地が減少している。シカの被害もある。

■**特徴**：明るい落葉樹林内に生える多年生草本。太平洋側に多い。茎は直立し高さ30-70cm。葉は互生するがやや輪生状。葉には長柄があり卵状長楕円形で長さ10-20cm。花期は9-10月。茎の先に白い花が円錐状に数個つく。総苞は短い円柱形。和名は葉の形をカシワに見立てたもの。県内では人工林と雑木林の境界部林縁に見られることが多い。

■**分布** 県内：智頭町。県外：本州、四国、九州の太平洋側。

■**保護上の留意点**：里山の広葉樹林の保全。ニホンジカの適正管理。

■**文献**：108。

執筆者：井上喜美子

ミヤコアザミ キク科

Saussurea maximowiczii Herder

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.9.13 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部の山間地に生育している。山地草原の減少に伴う希少化してきた。

■**特徴**：山地のやや湿った草原に生育する大型の多年生草本。根出葉は長柄があり長楕円形で羽状に深裂する。大きなロゼットを形成し根出葉は秋まで残る。草丈は1-1.5m内外、上部で分枝する。茎葉は小さく上部の葉は全縁。花期は9-10月。散房状に径10mmほどの淡紅紫色の頭花を上向きに多数つける。総苞は細い筒型で長さ15mm内外、帯紫色。農道沿いに生育している個体は、草刈り時に刈られてしまうこともある。

■**分布** 県内：江府町、日野町、日南町。県外：本州（福島県以南）、四国。

■**保護上の留意点**：山地草原と湿潤地周辺草地の保全。

執筆者：藤原文子

オオダイトウヒレン キク科

Saussurea nipponica Miq. subsp. *nipponica* var. *nipponica*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2017.8.27 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：氷ノ山の渓谷岩場の林縁部にわずかに生育。生育環境が限定され、豪雨や崩壊により個体群の変動が大きい。

■**特徴**：ブナ林帯の渓谷岩場の肥沃土上に生育する多年生草本。地下茎は匍匐する。茎の高さは1m近くになり、狭い翼がある。根出葉には長柄があり、広卵形で基部心形、低鋸歯縁、花時にも残る。花期は8-9月、頭花は散房状に多数つく。総苞は長さ1.5cm、総苞片は反曲、褐色の軟毛が密生する。生育地は渓谷岩場の谷筋であるため、積雪や豪雨の影響が顕著で個体群の状態は安定しない。近年岩場上部から個体が消え、下部の谷筋に増えているが豪雨の影響が懸念される。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

ヒメヒゴタイ キク科

Saussurea pulchella (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



島根県隠岐 2017.8.22 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、三朝町田代高原と船上山の草地で確認されていたが、現在は生育が確認できない。田代高原はシカの食害によりススキ以外の植物が消滅。船上山は火入れ回数が減少し林地化、ササやつる植物の繁茂により消滅した可能性が高い。

■**特徴**：日当たりのよい草原に生育する越年生草本。茎は直立し、高さ120cmになり、上部で分枝し多数の頭花をつける。花期は8-10月上旬で、花色は紅紫色。総苞片の先端に膜質で紅紫色の付属体がある。県内で確認された生育地は山地草原であるが、島根県隠岐島では海岸の風衝地に自生している。

■**分布** 県内：三朝町、琴浦町（現状不明）。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

キクアザミ キク科

Saussurea ussuriensis Maxim. var. *ussuriensis*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



琴浦町 2017.9.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育確認は1カ所のみ。草原の維持管理不足による環境変化とともに近年、生育本数の激減が見られ、今後の状況が心配される。

■**特徴**：日当たりのよい山地の草原に生育する多年生草本。高さ0.5-1.2m。根出葉には長柄があり、卵形または広卵形で羽状に裂ける。葉縁は鋭い鋸歯があり、葉身は薄い。花期は9月下旬-10月上旬。頭花は散房状につくが、花柄は短く密集する。頭花は淡紅色。生育地は火入れが行われなくなって他の草本に被圧され、減少したものと考えられる。類似のミヤコアザミは葉が羽状に深裂し、花柄が長く頭花がまばら。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州（福島県以南）、九州。朝鮮、中国、アムール。

■**保護上の留意点**：草原の維持管理、火入れの復活。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

ハンゴンソウ キク科
Senecio cannabifolius Lees.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



江府町 2021.7.27 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部の高標高地林縁に生育地が限定される。生育地は互いに孤立しており、存続に懸念がある。

■**特徴**：日当たりのよい深山の湿地周辺や河畔沿いに生育する大型の多年生草本。茎は直立し高さ 1-1.7 m。葉は大型で長さ 5-20 cm、掌状羽状深裂で微小鋸歯縁がある。上部の葉は小型化し、3 深裂一単葉、基部は葉柄に沿下する。花期は 8-9 月。茎頂に散房花序をつけ、頭花は黄色で径約 2 cm、多数密生する。和名は、若芽の強い香りを漢の光武帝夫人の霊を慰めた反魂香に例えたものとも、葉の形からきたものともいわれる。江府町の生育地は個体数が増加しているが、日南町の生育地は厳しい状況である。

■**分布** 県内：江府町、日南町。県外：北海道、本州（中部以北）。朝鮮、中国、シベリア東部。

■**保護上の留意点**：生育地の湿地環境の保全管理。

執筆：藤原文子

ヤマザトタンポポ キク科
Taraxacum arakii Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市 2021.4.9 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：全国的に生育地が限られ、県内でも生育地は限定的で孤立している。

■**特徴**：在来の 4 ないし 5 倍体タンポポで、頭花は黄花でやや大きく色は淡い。総苞の外片は上向きで、長さは内片の半分程度、角状突起の大きさに連続的な変異がみられる。山間部でみられる角状突起の大きいものはケンサキタンポポ *T. ceratolepis* Kitam. として区別されてきたが、変異は連続的で区別ができない。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市、八頭町、三朝町、大山町、米子市、伯耆町、境港市、江府町、日野町、日南町。県外：近畿、中国、四国。

■**保護上の留意点**：里山環境の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：13, 101, 102.

執筆：清末幸久

キビシロタンポポ キク科
Taraxacum hideoi Nakai ex H.Koidz.

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



若桜町 2021.4.3 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：以前はシロバナタンポポと混同されていたが、タンポポ調査西日本によって生育状況が整理された。自生の中心は山陽側にあり、県内での生育地は限定的。

■**特徴**：在来の 4 倍体タンポポで、頭花は 4-5 cm で色は白色から淡いクリーム色、ときにレモン色。総苞は淡い緑色、外片は内片の半分ほどの長さ。外片の縁は赤くなりやすく縁毛がある。瘦果は黒褐-茶褐色。標高 0-400 m 付近に生育する山里のタンポポ。岡山県から広島県東部に多い。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市、八頭町、琴浦町、米子市、伯耆町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：本州北陸地方（福井県）以西、四国。

■**保護上の留意点**：里山環境の維持。

■**文献**：13, 101, 102.

執筆：清末幸久

カンサイタンポポ キク科

Taraxacum japonicum Koidz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2021.4.11 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：関西地方から瀬戸内東部地域に分布の中心があり，鳥取県内を含め中国山地北側では生育地が限られる。外来種との交雑による影響も懸念される。

■**特徴**：在来の二倍体タンポポで，直径2 μm程度の大きさのそろった花粉を作って有性生殖をする。頭花は小型で総苞は細く，総苞外片は上向きで長さは内片の半分以下と短く，角状突起は小さい。

■**分布** 県内：智頭町—鳥取市用瀬町西部の山間地路傍に点在。八頭町，鳥取市，米子市，伯耆町でも確認されているが，道路沿いや都市公園内のため人為的移入の可能性がある。県外：関西地方，瀬戸内東部。

■**保護上の留意点**：土地改変による外来種の侵入への注意。

■**文献**：13, 88, 101, 102.

執筆：清末幸久

クシバタンポポ キク科

Taraxacum pectinatum Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2021.4.3 / 撮影：清末幸久

■**選定理由**：山間部に生育しもともと孤立していて個体数は多くない。土地改変や利用放棄により個体数がさらに減少することが懸念される。

■**特徴**：在来の4倍体黄花タンポポで，頭花はやや大きく色は濃い。総苞の外片は内片の半分より短くない。内片に圧着し角状突起はなく，こぶ状に膨らむ。開花時の花茎は葉より短く，葉が深く羽裂し櫛の歯状になることが多い。標高の低いところには生育せず，標高500 mあたりに分布のピークがある。

■**分布** 県内：鳥取市，三朝町，琴浦町，江府町，日野町，日南町。県外：近畿，中国，四国。

■**保護上の留意点**：里山環境の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：13, 88, 101, 102.

執筆：清末幸久

コウリンカ キク科

Tephrosia flammea (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



江府町 2020.7.22 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：山地草原の減少とシカ食害により，生育地，生育個体群ともに激減している。このままでは近く絶滅に至る。特に三朝町内の生育地ではシカ食害により草原が裸地化し近年，生育が確認できなくなった。

■**特徴**：日当たりの良い山地草原に生育する夏緑性の多年生草本。茎は細く直立し，高さ30–50 cmで上部にはくも毛がある。根出葉はへら形で花時には消滅。茎葉は広倒披針形—披針形で基部はやや茎を抱く。花期は7月中—下旬。頭花は径3–4 cmの橙黄色でやや散状に数個つく。長い舌状花があり，下を向くほど反り返る。

■**分布** 県内：三朝町，江府町。県外：本州（福島県—広島県）。

■**保護上の留意点**：山地草原の維持管理，ニホンジカの適正管理，食害防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ウラギク キク科
Tripolium pannonicum (Jacq.) Schur

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子水鳥公園 2006.10.16 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

- 選定理由**：県内での自生地はごくせまく個体数も少ない。県内ではもともと少ない海岸湿地が埋め立てなどで改変され、生育適地自体が希少。
- 特徴**：海岸の湿地に群生する越年生草本。県内では米子水鳥公園の干潟状の場所、しばしば汽水の湖水に浸かる立地にわずかに生育する。草丈は60 cmほどになり茎は無毛。葉は披針形で肉厚、基部はわずかに茎をだく。花期は8-10月。茎頂に多数の頭花をつける。頭花は径2 cmほど。塩分を含む場所に生育し、河口や海岸の湿地が生育適地だが、県内にはそのような場所はほとんどなく希少。種の分布は太平洋岸がほとんど。
- 分布** 県内：米子水鳥公園。県外：北海道（道東）、本州（関東以西の主に太平洋岸）、四国、九州。北半球温帯に広く分布。
- 保護上の留意点**：湿地の保護、保全。
- 文献**：87。

執筆者：神谷 要

カンボク レンブクソウ科
Viburnum opulus L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2021.5.18 /撮影：藤原文子

- 選定理由**：県内では山地に孤立的に生育し、個体数も少ない。
- 特徴**：山地の湿地周辺や日当たりのよい沢沿いに生育する落葉低木。高さ1-3 m内外。葉は対生し葉身は倒卵形。長さ幅とも5-6 cmで3中裂し3脈が顕著。裂片は鋭突頭でまばらに鋸歯がある。花期は5-6月。散房花序をつけ花序は無毛。縁辺部に装飾花、中心部に両性花を多数つけ全体白色。雄しべが突出し葯は濃紫色。果実は楕円球形で赤熟する。観賞用に栽培されることがある。野鳥は食べないのか、冬でも赤い果実が残存している。
- 分布** 県内：日野町、日南町。県外：北海道、本州（中部地方以北に多く、中国地方ではまれ）。
- 保護上の留意点**：採取防止。山間湿地や沢沿い周辺の自然植生保護。個体周辺には幼苗が見られるので、草刈り時に注意が必要。
- 文献**：108。

執筆者：藤原文子

キンギンボク スイカズラ科
Lonicera morrowii A.Gray

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



岩美町 2021.5.4 /撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では、東部の一地区だけに孤立的に生育する。すぐに絶滅する心配はないが、今後の推移に注意を払う必要がある。
- 特徴**：低山に生育する落葉低木。分枝して株状になり、高さ1-2 m。枝は垂れる傾向にある。若枝には軟毛が密生する。葉は対生、広卵形-狭楕円形、葉脈は深くしわ状に見え、軟毛が密生する。花期は5月、葉の付け根に2個ずつつく。花は初め白色で後黄色になる（キンギンボクの由来）。果実は球形で2個が合着して赤く熟す（別名ヒョウタンボクの由来）。県内では海岸砂地に接する岩崖地に生育する。道路端の崖地にも生育していたが、道路維持の刈り払いにより消失した。周辺の樹木の繁茂により減少傾向である。
- 分布** 県内：岩美町。県外：北海道（西南部）、本州（東北地方および日本海側）。
- 保護上の留意点**：海岸崖地の植生保護。道路維持に注意。
- 特記事項**：別名ヒョウタンボク。国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

ダイセンヒョウタンボク スイカズラ科

Lonicera strophiphora Franch. var. *glabra* Nakai

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2021.5.4 / 撮影：鷲見寛幸

- 選定理由：大山が模式産地。県内では、大山や氷ノ山のブナ帯に生育する。
- 特徴：ブナ帯域に生育する落葉低木。若枝は長腺毛が散生するが、後に無毛となる。葉は卵形—長楕円形で鋭突頭，基部は円形，粗毛と腺毛がある。花期は4—6月。花柄の先に2花をつける。花冠は白黄色，漏斗状で下垂する。液果は球形で赤くなり，2個がヒョウタン形になることからこの名がついた。北海道から四国の山地に分布する基本種のアラゲヒョウタンボクとは，子房や花柱の下半分に毛がないことで区別する。
- 分布 県内：若桜町，智頭町，三朝町，大山町，日南町。県外：本州（近畿—中国地方）。
- 保護上の留意点：ブナ帯域の自然林保護，採取防止。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献：106.

執筆：鷲見寛幸

マツムシソウ スイカズラ科

Scabiosa japonica Miq. var. *japonica*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2015.10.22 / 撮影：磯江茂秋

- 選定理由：県内各地の山地草原に生育するが，草刈り時期の問題や草原の利用放棄により減少してきている。
- 特徴：日当たりのよい山地草原に生育する越年生草本。茎は高さ70 cm前後になる。葉は対生で羽状に深く切れ込む。下部の葉は長めの葉柄がある。花期は8—10月頃。径3 cmほどの頭状花序をつけ，青紫色。幼植物はロゼットで越冬する。背の高い植物に覆われると生育困難になる可能性が高い。榎水高原では自生のマツムシソウから採取した種子から育てた苗を移植するなどの保全活動が行われている。
- 分布 県内：智頭町，三朝町，倉吉市，大山町，伯耆町，江府町，日南町。県外：本州，四国，九州。
- 保護上の留意点：山地草原の維持と草刈り時期配慮。
- 特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献：8, 106, 108.

執筆：磯江茂秋

ウラジロウコギ ウコギ科

Eleutherococcus hypoleucus (Makino) Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2015.9.23 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由：県内では氷ノ山ブナ林下のごく限られた岩崖に少数見られるのみ。採取に注意する必要がある。
- 特徴：ブナ林下の岩崖に生える落葉低木。高さ3 m前後，枝に針状の刺がある。葉は互生し，掌状複葉で長さ10 cm前後，卵状長楕円形，鋭鋸歯縁で裏面は紛白色。果実は9—10月に熟し，液果で径6 mmほどの球形。全国的に石灰岩地に多く見られ，珍しい木なので採取に注意を要す。県内に点在するヤマウコギの小葉は倒卵形，同形同大，浅い鋸歯縁，両面無毛。
- 分布 県内：若桜町。県外：本州（関東地方，長野県・山梨県），四国，九州。
- 保護上の留意点：ブナ林の岩崖の自然植生保護と採取防止。
- 文献：43.

執筆：坂田成孝

ヨロイグサ セリ科

Angelica dahurica (Hoffm.) Benth. et Hook.f. ex Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.8.2 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では西部の山間地にのみ生育が確認されている。他の植物に被圧されて減少している生育地がある。

■**特徴**：川沿いなど、日当たりがよく湿った場所に生育する大型の多年生草本。茎は高さ1-2.5 m内外になり中空。根元の太さは5 cm以上になる。葉は2-3回3出羽状複葉で小葉はシシウドより細長く数が多い。緑はざらつく。葉柄の基部は鞘となって著しくふくれ茎を抱く。花期は7-8月。白い小花を散形につける。根が漢方薬として使われ栽培されることもある。大山に生育するエゾノヨロイグサよりも全体に大型。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：本州（中国地方）、九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：生育地の草刈り等、植生管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

エゾノヨロイグサ セリ科

Angelica sachalinensis Maxim. var. *sachalinensis*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2021.7.22 / 撮影：祝原幸治

■**選定理由**：県内では、生育地が大山の標高1000 m以上の草原に限られる。

■**特徴**：北方系の植物で、日当たりのよい山地草原に生育する大型の多年生草本。茎は赤紫色を帯びて直立し、高さ1-1.5 mになり、上部で分岐する。葉は2-3回3出羽状複葉で、長さ幅とも15-40 cm。小葉はやや肉厚の長楕円形で、裏面は白色を帯び、鋸歯がある。茎の上部の葉は小さく、葉柄の基部はふくらんで袋状になる。7-8月にかけて、茎先や分枝した枝の先端に大型の複散形花序をつけ、白色の小花を多数・密につけ、丸みを帯びて見える。果実は広楕円形で両端はへこみ翼のようになる。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：自生地の自然草原保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106, 108, 117。

執筆者：祝原幸治

ドクゼリ セリ科

Cicuta virosa L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2018.7.25 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内では日南町の1カ所で自生が確認されているのみ。2021年の調査では地上部が見つからなかった。絶滅が心配される。

■**特徴**：沼や河川の縁に生育する抽水性の大形多年生草本。流水域を好み、水田には見られない。根茎は太く発芽時は赤茶色、茎が伸びるにつれ緑色になる。中は筍状の短節中空。茎は多分岐で草丈は1 mに達する。傷をつけると橙色で有毒の液が出る。葉は互生、2-3回羽状複葉。葉柄は長く、小葉は長さ3-8 cm、長楕円状披針形で鋸歯がある。花は枝先に複散形花序となって小花を多数つけ半円形に咲く。花弁5枚、雄しべ5本。花期は7月下旬-8月上旬。果実は卵球形で長さは約3 mm、花柱が2本つく。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。ユーラシア。

■**保護上の留意点**：出水やイノシシによる掘り起こしによる根茎の流失防止。他の草本による圧迫を避けるための除草。

■**特記事項**：自生地は山の下がり水を集めた水路。2010年は16株が確認されたが13年秋の出水後に消失し、15年は3株、20年は1株。調査継続が必要。

■**文献**：20。

執筆者：浜田幸夫

オオハナウド セリ科

Heracleum lanatum Michx. var. *lanatum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2016.6.3 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：近畿以北に分布する種で県内が分布西限と思われる。県内東部に多く分布するが西に行くほど減少し大山まで。

■**特徴**：平地から山地の林内、林縁に生育する大型の多年生草本。茎は高さ2mになり上部で分枝する。ハナウドに似るが、3出する茎葉が大きく、特に頂羽片は20cm以上になる。茎の毛は北のものほど多く県内産は少ない。花期は5-8月。散形の花序もハナウドより大きい。東部では海岸から山地まで見られ、西部の鏑拔山まで生育が確認される。林縁部にススキ等の大型草本が繁茂して減少傾向である。

■**分布** 県内：大山以東。県外：北海道，本州（近畿以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：森林林縁部の草地の保護。

執筆者：坂田成孝

ムカゴニンジン セリ科

Sium ninsi L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2020.8.31 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では、日野町と日南町で生育を確認。本種の生育に適した湿地は少なく、生育地周辺は管理放棄やヨシの侵入で環境悪化が進んでいる。

■**特徴**：日当たりのよい湿地や池沼に生育する多年生草本。茎は直立し高さ50-80cm。上部の葉は3出，下部の葉は単羽状複葉となる。小葉はほとんど無柄。花期は9-10月。花は白色で萼片はごく小さい。秋，根元や葉腋にむかごをつける。

■**分布** 県内：日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿地および休耕田等の維持管理，乾燥化の防止。

執筆者：矢田貝繁明

参考文献 維管束植物

1. 愛知県 (2020) レッドデータブックあいち 2020 植物編。愛知県環境局環境政策部自然環境課，415 pp.
2. 荒木 悟・國井秀伸 (2007) 湿生植物オオクグの結実率とその群落規模との関係。陸水学雑誌，68: 261-268.
3. 藤井伸二・牧 雅之・志賀 隆 (2016) 新外来水草コウガイセキショウモおよびオーストラリアセキショウモの同定。水草研究会誌，103: 8-12.
4. 福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃 (編) (2005) 兵庫県産維管束植物 6. 人と自然，No.15: 93-146.
5. 針本翔太・久保満佐子 (2021) 異なる土質および光条件における絶滅危惧植物オキナグサ (*Pulsatilla cernua*) 実生の発生と生残。日本草地学会誌，67: 82-88.
6. 長谷川泰洋・吉野奈津子・杉山 晃 (2019) 菌従属栄養植物ホンゴウソウ，ヒナノシャクジョウの生育環境特性。名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研

究所年報，18: 36-43.

7. 林 将之 (2012) 照葉樹ハンドブック。文一総合出版，80 pp.
8. 林 弥栄 (1983) 山溪カラー名鑑 日本の野草。山と溪谷社 (東京)，719 pp.
9. 日野郡科学教育研究会 (1955) 鳥取県日野郡生物誌。日野郡科学教育研究会，206 pp.
10. レッドデータブックひろしま改訂検討委員会 (編) (2011) 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま 2011 -，633pp.
11. 星野卓二 (2021) カヤツリグサ科植物のカラー植物図鑑。http://hoshinolab.main.jp/ (2021.12.20)
12. 星野卓二・正木智美 (2011) 日本カヤツリグサ科植物図譜。平凡社，778 pp.
13. 保谷彰彦 (2017) タンポポハンドブック。文一総合出版 (東京)，88 pp.
14. 茨城県 (2013) 茨城における絶滅のおそれのある野生

- 生物植物編 2012 年改訂版. 茨城県生活環境部環境政策課, 252 pp.
15. 伊田弘実 (1965) 大山の花 上巻. 米子市観光協会, 180 pp.
 16. 伊田弘実 (1973) 大山の花たち. 米子市観光協会, 215 pp.
 17. 伊田弘実 (1976) 大山花の散歩. 山陰放送, 217 pp.
 18. 池田健蔵・遠藤 博 (1996) 原色新樹木検索図鑑 (離弁花編). 北隆館 (東京), 135 pp.
 19. 池田健蔵・遠藤 博 (1996) 原色野草検索図鑑 (合弁花編). 北隆館 (東京), 127 pp.
 20. 池田健蔵・遠藤 博 (1996) 原色野草検索図鑑 (離弁花編). 北隆館 (東京), 127 pp.
 21. 池田健蔵・遠藤 博 (1997) 原色野草検索図鑑 (単子葉植物編). 北隆館 (東京), 122 pp.
 22. 池田健蔵・遠藤 博 (1997) 原色新樹木検索図鑑 (合弁花編). 北隆館 (東京), 127 pp.
 23. 井上雅仁・松村美雪・野上篤孝 (2009) 杵村喜則氏植物標本目録 (I). 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録第 11 号, 173 pp.
 24. 岩槻邦男・D.E.Boufford・大場秀章・編 (2006) Flora of Japan, Vol.IIa, 講談社サイエンティフィック, 564 pp.
 25. 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版 (東京), 179 pp.
 26. 角野康郎 (2014) ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版 (東京), 326 pp.
 27. 門田裕一 (2002) 広島県から再発見された幻のアザミームラクモアザミ. 国立科学博物館ニュース, 402: 14-15.
 28. 神谷 要・國井秀伸 (2001) 汽水性沈水植物リュウノヒゲモに水鳥が与える影響について. 水草研究会会報, 72: 33-35.
 29. 勝山輝男 (2005) 日本のスゲ 増改訂版. 文一総合出版 (東京), 375 pp.
 30. 川上敏明・清水寛厚 (1993) 船通山の自然植生. pp.162-163. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物編). 鳥取県, 275 pp.
 31. 北村四郎・村田 源 (1957) 原色日本植物図鑑草本編 I. 保育社, 378 pp.
 32. 清末忠人 (1968) 松村義敏先生をしのいで. pp. 19-20. In: 室井 綽 (編) 植物趣味 5. 東亜植物学会, 56 pp.
 33. 清末忠人・清末幸久 (2014) 国立公園鳥取砂丘の生きもの. 今井出版鳥取出版企画室, 149 pp.
 34. 清末幸久 (2001) 鳥取県三朝町内に遺存するミツガシワ湿原の植生. 鳥取県立博物館研究報告, (37・38): 1-14.
 35. 清末幸久 (編) (2005) 鳥取県立博物館所蔵目録 49 鳥取県立博物館維管束植物コレクション目録 2005. 鳥取県立博物館, 89 pp.
 36. 清末幸久 (編) (2006) 鳥取県立博物館所蔵目録 50 鳥取県立博物館維管束植物コレクション目録 2006. 鳥取県立博物館, 55 pp.
 37. 清末幸久 (2006) 鳥取県におけるヒナノシヤクジョウの初記録. 鳥取県立博物館研究報告, 43:17-18.
 38. 清末幸久 (2016) 鳥取県におけるヒノキバヤドリギの初記録. 鳥取県立博物館研究報告, 52・53. 1-2
 39. 清末幸久・田中重樹・井原早紀・永松 大 (2018) 市民参加調査による鳥取県の海浜植物 10 年比較—自然観察指導員と鳥取県立博物館の連携事例—. 植生情報, 22: 12-17.
 40. 小林一彦 (2003) 氷ノ山赤倉の植物. 2003 年 1 月鳥取県植物学会総会発表資料.
 41. 小林幹夫 (2017) 日本のタケ亜科植物. 北隆館 (東京), 435 pp.
 42. 小林禧樹・黒崎史平 (2005) 西日本におけるホスゲの新産地 (新たな分布西限地). *Bunrui*, 5: 39-42.
 43. 小林禧樹・黒崎史平・丸岡道行・坂田成孝 (2016) 中国山地 (鳥取・兵庫県境の氷ノ山山域) でみつかったウラジロウコギ (ウコギ科). *分類*, 16 (2): 189-195.
 44. 国立公園大山大山の頂上を保護する会・大山の美化を推進する会 (編) (2016) 国立公園指定 80 周年国立公園大山: 大山の頂上保護活動 30 年のあゆみ: 大山の美化活動 40 年のあゆみ. 今井出版, 231 pp.
 45. 國井秀伸 (1995) イトクズモ. 汽水湖, (財) 宍道湖・中海汽水湖研究所, 8: 27.
 46. 國井秀伸 (1995) 汽水域における水生植物の多様性について. *日本海水学会誌*, 49: 136-139.
 47. 國井秀伸 (1998) リュウノヒゲモ. 汽水湖, (財) 宍道湖・中海汽水湖研究所, 11: 52.
 48. 國井秀伸 (2000) 中海米子湾彦名処理地の水生植物. *ホシザキグリーン財団研究報*, 4: 1-5.
 49. 國井秀伸 (2001) 宍道湖・中海における水生絶滅植物の分布. *Laguna*, 8: 95-100.
 50. 倉田 悟・中池敏之 (2005) 日本のシダ植物図鑑—分布・生態・分類 (第 6 巻). 東京大学出版会 (東京), 881 pp.
 51. 前田雄一・一澤麻子 (2020) 鳥取県におけるササ類の分布状況と県東部に生育していたマンシュウヤマサギソウ. *山陰自然史研究*, 16: 47-50.
 52. 丸岡道行 (2007) 赤倉山周辺の植物調査. *兵庫県植物誌研究会会報*, 74: 1-3.
 53. 丸岡道行 (2010) 氷ノ山山域 (兵庫・鳥取県境) の岩場と草地で観察された植物. *兵庫の植物*, 20: 1-6.
 54. 松本哲也・坂田成孝 (2020) 鳥取県で発見されたマイヅルテンナンショウ (サトイモ科). *Journal of Japanese Botany*, 95 (1): 58-60.
 55. 松岡嘉之 (1982) 写真集 大山の仲間たち. 自費出版, 111pp.
 56. 森 明寛・岡本将揮・前田晃宏・宮本 康 (2014) 鳥取県の湖沼植生の現状と土壌シードバンクからの水生植物の再生. *鳥取県衛生環境研究所報*, 55: 20-24.
 57. 森 明寛・盛山哲郎・前田晃宏・岡本将揮・増川正敏・山本達也 (2016) 地域住民との共同による東郷池のセキショウモ保全に向けた試験移植 (事例紹介). *鳥取県衛生環境研究所報*, 57: 77-79.
 58. 森 明寛・前田晃宏・日置佳之 (2020) 汽水湖東郷池における淡水性水生植物セキショウモ *Vallisneria asiatica* Miki の生育環境. *応用生態工学*, 22: 117-124.
 59. 森本満喜夫 (2010) 三徳山の植生永遠に. 三朝町教育委員会 (三朝), 228 pp.
 60. 邑田仁・大野順一・小林禧樹・東馬哲雄 (2018) 日本産テンナンショウ属図鑑. pp. 242-244. 北隆館, 360 pp.
 61. 永松 大 (2010) 浦富海岸鴨ヶ磯 (鳥取県岩美町) の植生構造. *山陰自然史研究*, 4: 49-55.
 62. 永松 大 (2011) 絶滅危惧種クマガイソウの鳥取県に

- おける自生状況. 山陰自然史研究, 6: 9–15.
63. 永松 大 (編) (2011) 平成 22 年度鳥取県特定希少野生動植物モニタリング調査報告書. 鳥取県, 70 pp.
 64. 永松 大・富永彩恵 (2007) 鳥取砂丘の植生と植生管理の試み. pp. 28–38. In: 鳥取砂丘景観保全協議会 (編) 鳥取砂丘景観保全調査報告書. 平成 19 年 3 月. 鳥取砂丘景観保全協議会, 93 pp.
 65. 永松 大・山中雪愛 (2018) 分布南限地帯におけるハマナス群落の構造変化と保全管理. 日本緑化工学会誌, 44: 57–62.
 66. 永松 大・坂田成孝・矢田貝繁明・谷亀高広・有川智己 (2013) 大山に自生する希少植物の再検討. 鳥取県立博物館研究報告, 50: 45–53.
 67. 永松 大・坂田成孝・矢田貝繁明 (2016) 鳥取砂丘でのハマハナヤスリの再発見と鳥取県内でのトラノオスズカケとヤナギスブタの新規確認. 山陰自然史研究, 12: 22–25.
 68. 永松 大・矢田貝繁明・坂田成孝・汐田達哉・廣江伸作・本池祐貴・井上喜美子 (2018) 鳥取県内におけるスブタ, エゾナミキ, オオバシナミズニラの新規確認とクラガリシダ, ミズアオイの再発見. 山陰自然史研究, 15: 41–45.
 69. 永松 大・矢田貝繁明・坂田成孝・岡田祐哉・本池祐貴 (2021) 鳥取県内におけるクモラン, マメヅタラン, スズシロソウ, ホザキヤドリギの初記録とアキノハイルリソウの分布状況. 山陰自然史研究, 17: 14–18.
 70. 中元崇博・永松 大・中田政司 (2014) 鳥取市内陸部における絶滅危惧種ワカサハマギクの個体群の現状. 山陰自然史研究, 10: 7–14.
 71. 中西 収・小林禧樹・黒崎史平 (2006) キヨスミウツボの生活. 兵庫県植物誌研究会, 108 pp.
 72. 中田政司 (2012) 準絶滅危惧種ワカサハマギクの減少要因とレッドリストの再評価—個体群の約 30 年後の追跡調査から. 植物地理・分類研究, 59: 89–99.
 73. 中田政司・竹内 基 (1998) 氷見市大境産サンインギク個体群の変異. 富山県中央植物園研究報告, 3: 1–16.
 74. 日本山岳会山陰支部 (編) (1989) 山陰の百山. 日本山岳会山陰支部, (米子).
 75. Oda, J., Tanaka, A., Naiki, A. and Nagamasu, H. (2003) *Carex jubozanensis* (Cyperaceae), a new species from Japan. *Acta phytotaxonomica et Geobotanica*, 54: 127–135.
 76. 大橋広好・角田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2015) 改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社 (東京), 666 pp.
 77. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編) (2016) 改訂新版日本の野生植物 3. 平凡社 (東京), 604 pp.
 78. 岡山県野生動植物調査検討会 (2020) 岡山県レッドデータブック 2020 植物編. 岡山県環境文化自然環境課, 368 pp.
 79. 小野幹雄・林 弥栄 (1987) 原色高山植物大図鑑. 北隆館 (東京), 846 pp.
 80. 埼玉県 (2011) 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県環境部自然環境課. 211 pp.
 81. 坂田成孝 (2014) 鳥取県内に産するカヤツリグサ科の種と分布. 鳥取県立博物館研究報告, 51: 7–22.
 82. 佐々木あや子 (2018) ハナヤスリ科. pp. 31–32. In: 神奈川植物誌 2018 電子版. 神奈川植物誌調査会 (小田原), 1803 pp.
 83. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1999) 日本の野生植物 草本 I 単子葉類 (新装版). 平凡社, 305 pp.
 84. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1999) 日本の野生植物 草本 II 離弁花類 (新装版). 平凡社, 318 pp.
 85. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1999) 日本の野生植物 草本 III 合弁花類 (新装版). 平凡社, 259 pp.
 86. 里見信生 (1994) 続折々草: 65–66. 自費出版.
 87. 環境省生物多様性センター 生物情報いきものログ, ウラギク. <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/h19/?code=55490> 2021. Nov. 30 th.
 88. 芹沢俊介 (1995) エコロジーガイド人里の自然. pp. 45–64. 保育社 (東京), 196 pp.
 89. 清水寛厚 (1993) 烏ヶ山のミヤマハンノキ林. pp. 178–179. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物). 鳥取県, 275 pp.
 90. 清水寛厚 (1993) 大山のキャラボク低木林. pp. 186–187. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物). 鳥取県, 275 pp.
 91. 清水寛厚 (1993) 椎谷神社社叢. pp. 26–27. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物). 鳥取県, 275 pp.
 92. 清水寛厚・坂田成孝 (1973) 烏ヶ山のミヤマハンノキ林—植物社会および分布について—. 大山隠岐国立公園・大山地区学術調査報告. 日本自然保護協会調査報告, 45: 129–139.
 93. 静岡県 (2020) まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック植物・菌類編. 静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課. 341 pp.
 94. 鷺見寛幸 (1993) 本宮の泉のバイカモ水生群落. pp. 264–265. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物). 鳥取県, 275 pp.
 95. 高橋佳孝・黄 双全・内藤和明・井出保行・小林英和・佐藤節郎 (2003) オキナグサの種子生産は天候に左右されやすい?. 日本草地学会誌, 49: 46–47.
 96. 高野温子・高見祐一 (2015) 兵庫県に産するイワギボウシはオヒガンギボウシである. 兵庫の植物, 25: 1–4.
 97. 棚田耕吉 (1993) 松河原のハマナス群落. pp. 262–263. In: 清水寛厚 (編) 鳥取県のすぐれた自然 (植物). 鳥取県, 275 pp.
 98. 田中昭彦 (1984) シダ新産地短報 (I). 鳥取生物, 18: 8–9.
 99. Tanaka, T. (1995) *Veronica x myriantha*, a new hybrid from the kansai district, Japan. *Journal of Japanese Botany*, 70: 260–269.
 100. 田中昭彦 (1997) 鳥取県の生物 (植物). pp. 10–16. In: 田村昭夫 (編) 救おう! 日本の野生生物. 鳥取県立博物館, 47 pp.
 101. タンポポ調査・西日本 2010 実行委員会 (2011) タンポポ調査・西日本 2010 調査報告書. (大阪) 144 pp.
 102. タンポポ調査・西日本 2015 実行委員会 (2016) タンポポ調査・西日本 2015 調査報告書. (大阪) 144pp.
 103. 寺尾 博 (1979) 日本産コミヤマカタバミ (広義) に関する植物地理学および分類学的研究. 植物分類・地理, 30: 45–64.

104. 鳥取県教育研修センター（編）（1992）鳥取県野外学習テキスト第11集 気高とその周辺. 鳥取県教育研修センター, 240 pp.
105. 鳥取県立公文書館（編）（1994）鳥府志図録. 鳥取県立公文書館, 234 pp.
106. 鳥取県（2002）レッドデータブックとっとり（植物）.
107. 鳥取県日野総合事務所福祉保健局（2010）自然保護監視員の野の花だより. <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=47583> (2021. 10. 30)
108. 鳥取県（2012）レッドデータブックとっとり改訂版.
109. 鳥取県植物誌研究会（2021）web版 鳥取県植物誌. <http://floratottori-trial.seesaa.net/article/480137871.html>
110. Tsutsumi, C., Yukawa, T. and Kato, M. (2019) Taxonomic Reappraisal of *Liparis japonica* and *L. makinoana* (Orchidaceae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Tokyo Series B (Botany)*, 45(3): 107–118.
111. 上野達也（1996）ムラクモアザミは雑種か雑種起源である可能性がある. *植物地理・分類研究*, 44: 94–96.
112. 鷺谷いづみ（1998）サクラソウの目－保全生態学とは何か－地人書館（東京）. 229 pp.
113. 株式会社ウエスコ（2003）「千代川植物調査業務」及「八東川植生図作成」河川水辺の国勢調査 河川調査編・植物調査編報告書. 国土交通省中国地方整備局, 234 pp.
114. 山本晴恵・木原清志（1991）鳥取県八頭郡佐治村木合谷のシダ植物採集目録. *鳥取生物*, 25: 10–14.
115. 山根光昭（1996）八葉寺川周辺の植物について. *鳥取生物*, 29: 6–8.
116. 安原修次（2005）大山・蒜山の花. ほおずき書籍（長野）, 198 pp.
117. 矢田貝繁明（2018）霊峰スケッチ 大山の草花. 山陰中央新報社（松江市）. 248 pp.
118. Yonekura, K. and Ohashi, H. (1998) Geographical distribution and variation of *Bistorta tenuicaulis* and its new variety from Japan, with special reference to gynodioecy of *B. tenuicaulis* and *B. abukumensis* (Polygonaceae) . *Journal of Japanese Botany*, 73: 1–11.